出エジプト記

Exodus

旧約聖書

第1章

1 さて、ヤコブとともに、それぞれ自分の家族を連れてエジプトに来た、イスラエルの息子たちの名は次のとおりである。
2 ルベン、シメオン、レビ、ユダ。
3 イッサカル、ゼブルン、ベニヤミン。
4 ダンとナフタリ。ガドとアシェル。
5 ヤコブの腰から生まれ出た者の総数は七十名であった。ヨセフはすでにエジプトにいた。
6 それから、ヨセフもその兄弟たちも、またその時代の人々もみな死んだ。
7 イスラエルの子らは多くの子を生んで、群れ広がり、増えて非常に強くなった。こうしてその地は彼らで満ちた。
8 やがて、ヨセフのことを知らない新しい王がエジプトに起こった。
9 彼は民に言った。「見よ。イスラエルの民はわれわれよりも多く、また強い。
10 さあ、彼らを賢く取り扱おう。彼らが多くなり、いざ戦いというときに敵側についてわれわれと戦い、この地から出て行くことがないように。」
11 そこで、彼らを重い労役で苦しめようと、彼らの上に役務の監督を任命した。また、ファラオのために倉庫の町ピトムとラメセスを建てた。
12 しかし、苦しめれば苦しめるほど、この民はますます増え広がったので、人々はイスラエルの子らに恐怖を抱くようになった。
13 それでエジプト人は、イスラエルの子らに過酷な労働を課し、
14 漆喰やれんが作りの激しい労働や、畑のあらゆる労働など、彼らに課す過酷なすべての労働で、彼らの生活を苦しいものにした。
15 また、エジプトの王は、ヘブル人の助産婦たちに命じた。一人の名はシフラ、もう一人の名はプアであった。
16 彼は言った。「ヘブル人の女の出産を助けるとき、産み台の上を見て、もし男の子なら、殺さなければならない。女の子なら、生かしておけ。」
17 しかし、助産婦たちは神を恐れ、エジプトの王が命じたとおりにはしないで、男の子を生かしておいた。
18 そこで、エジプトの王はその助産婦たちを呼んで言った。「なぜこのようなことをして、男の子を生かしておいたのか。」
19 助産婦たちはファラオに答えた。「ヘブル人の女はエジプト人の女とは違います。彼女たちは元気で、助産婦が行く前に産んでしまうのです。」
20 神はこの助産婦たちに良くしてくださった。そのため、この民は増えて非常に強くなった。
21 助産婦たちは神を恐れたので、神は彼女たちの家を栄えさせた。
22 ファラオは自分のすべての民に次のように命じた。「生まれた男の子はみな、ナイル川に投げ込まなければならない。女の子はみな、生かしておかなければならない。」

第2章

1 さて、レビの家のある人がレビ人の娘を妻に迎えた。

2 彼女は身ごもって男の子を産み、その子がかわいいのを見て、三か月間その子を隠しておいた。
3 しかし、それ以上隠しきれなくなり、その子のためにパピルスのかごを取り、それに瀝青と樹脂を塗って、その子を中に入れ、ナイル川の岸の葦の茂みの中に置いた。
4 その子の姉は、その子がどうなるかと思って、離れたところに立っていた。
5 すると、ファラオの娘が水浴びをしようとナイルに下りて来た。侍女たちはナイルの川辺を歩いていた。彼女は葦の茂みの中にそのかごがあるのを見つけ、召使いの女を遣わして取って来させた。
6 それを開けて、見ると、子どもがいた。なんと、それは男の子で、泣いていた。彼女はその子をかわいそうに思い、言った。「これはヘブル人の子どもです。」
7 その子の姉はファラオの娘に言った。「私が行って、あなた様にヘブル人の中から乳母を一人呼んで参りましょうか。あなた様に代わって、その子に乳を飲ませるために。」
8 ファラオの娘が「行って来ておくれ」と言ったので、少女は行き、その子の母を呼んで来た。
9 ファラオの娘は母親に言った。「この子を連れて行き、私に代わって乳を飲ませてください。私が賃金を払いましょう。」それで彼女はその子を引き取って、乳を飲ませた。
10 その子が大きくなったとき、母はその子をファラオの娘のもとに連れて行き、その子は王女の息子になった。王女はその子をモーセと名づけた。彼女は「水の中から、私がこの子を引き出したから」と言った。
11 こうして日がたち、モーセは大人になった。彼は同胞たちのところへ出て行き、その苦役を見た。そして、自分の同胞であるヘブル人の一人を、一人のエジプト人が打っているのを見た。
12 彼はあたりを見回し、だれもいないのを確かめると、そのエジプト人を打ち殺し、砂の中に埋めた。
13 次の日、また外に出てみると、見よ、二人のヘブル人が争っていた。モーセは、悪いほうに「どうして自分の仲間を打つのか」と言った。
14 彼は言った。「だれがおまえを、指導者やさばき人として私たちの上に任命したのか。おまえは、あのエジプト人を殺したように、私も殺そうというのか。」そこでモーセは恐れて、きっとあのことが知られたのだと思った。
15 ファラオはこのことを聞いて、モーセを殺そうと捜した。しかし、モーセはファラオのもとから逃れ、ミディアンの地に着き、井戸の傍らに座った。
16 さて、ミディアンの祭司に七人の娘がいた。彼女たちは父の羊の群れに水を飲ませに来て、水を汲み、水ぶねに満たしていた。
17 そのとき、羊飼いたちが来て、彼女たちを追い払った。するとモーセは立ち上がって、娘たちを助けてやり、羊の群れに水を飲ませた。
18 彼女たちが父レウエルのところに帰ったとき、父は言った。「どうして今日はこんなに早く帰って来たのか。」
19 娘たちは答えた。「一人のエジプト人が、私たちを羊飼いたちの手から助けてくれました。そのうえ、その人は私たちのために水汲みまでして、羊の群れに飲ませてくれました。」
20 父は娘たちに言った。「その人はどこにいるのか。どうして、その人を置いてきてしまったのか。食事を差し上げたいので、その人を呼んで来なさい。」

21 モーセは心を決めて、この人のところに住むことにした。そこで、その人は娘のツィポラをモーセに与えた。
22 彼女は男の子を産んだ。モーセはその子をゲルショムと名づけた。「私は異国にいる寄留者だ」と言ったからである。
23 それから何年もたって、エジプトの王は死んだ。イスラエルの子らは重い労働にうめき、泣き叫んだ。重い労働による彼らの叫びは神に届いた。
24 神は彼らの嘆きを聞き、アブラハム、イサク、ヤコブとの契約を思い起こされた。
25 神はイスラエルの子らをご覧になった。神は彼らをみこころに留められた。

第3章

1 モーセは、ミディアンの祭司、しゅうとイテロの羊を飼っていた。彼はその群れを荒野の奥まで導いて、神の山ホレブにやって来た。
2 すると主の使いが、柴の茂みのただ中の、燃える炎の中で彼に現れた。彼が見ると、なんと、燃えているのに柴は燃え尽きていなかった。
3 モーセは思った。「近寄って、この大いなる光景を見よう。なぜ柴が燃え尽きないのだろう。」
4 主は、彼が横切って見に来るのをご覧になった。神は柴の茂みの中から彼に「モーセ、モーセ」と呼びかけられた。彼は「はい、ここにおります」と答えた。
5 神は仰せられた。「ここに近づいてはならない。あなたの履き物を脱げ。あなたの立っている場所は聖なる地である。」
6 さらに仰せられた。「わたしはあなたの父祖の神、アブラハムの神、イサクの神、ヤコブの神である。」モーセは顔を隠した。神を仰ぎ見るのを恐れたからである。
7 主は言われた。「わたしは、エジプトにいるわたしの民の苦しみを確かに見、追い立てる者たちの前での彼らの叫びを聞いた。わたしは彼らの痛みを確かに知っている。
8 わたしが下って来たのは、エジプトの手から彼らを救い出し、その地から、広く良い地、乳と蜜の流れる地に、カナン人、ヒッタイト人、アモリ人、ペリジ人、ヒビ人、エブス人のいる場所に、彼らを導き上るためである。
9 今、見よ、イスラエルの子らの叫びはわたしに届いた。わたしはまた、エジプト人が彼らを虐げている有様を見た。
10 今、行け。わたしは、あなたをファラオのもとに遣わす。わたしの民、イスラエルの子らをエジプトから導き出せ。」
11 モーセは神に言った。「私は、いったい何者なのでしょう。ファラオのもとに行き、イスラエルの子らをエジプトから導き出さなければならないとは。」
12 神は仰せられた。「わたしが、あなたとともにいる。これが、あなたのためのしるしである。このわたしがあなたを遣わすのだ。あなたがこの民をエジプトから導き出すとき、あなたがたは、この山で神に仕えなければならない。」
13 モーセは神に言った。「今、私がイスラエルの子らのところに行き、『あなたがたの父祖の神が、あなたがたのもとに私を遣わされた』と言えば、彼らは『その名は何か』と私に聞くでしょう。私は彼らに何と答えればよいのでしょうか。」

14 神はモーセに仰せられた。「わたしは『わたしはある』という者である。」また仰せられた。「あなたはイスラエルの子らに、こう言わなければならない。『わたしはある』という方が私をあなたがたのところに遣わされた、と。」
15 神はさらにモーセに仰せられた。「イスラエルの子らに、こう言え。『あなたがたの父祖の神、アブラハムの神、イサクの神、ヤコブの神、主が、あなたがたのところに私を遣わされた』と。これが永遠にわたしの名である。これが代々にわたり、わたしの呼び名である。
16 行って、イスラエルの長老たちを集めて言え。『あなたがたの父祖の神、アブラハム、イサク、ヤコブの神、主が私に現れてこう言われた。「わたしは、あなたがたのこと、またエジプトであなたがたに対してなされていることを、必ず顧みる。
17 だからわたしは、あなたがたをエジプトでの苦しみから解放して、カナン人、ヒッタイト人、アモリ人、ペリジ人、ヒビ人、エブス人の地へ、乳と蜜の流れる地へ導き上ると言ったのである」と。』
18 彼らはあなたの声に聞き従う。あなたはイスラエルの長老たちと一緒にエジプトの王のところに行き、彼にこう言え。『ヘブル人の神、主が私たちにお会いくださいました。今、どうか私たちに荒野へ三日の道のりを行かせ、私たちの神、主にいけにえを献げさせてください。』
19 しかし、エジプトの王は強いられなければあなたがたを行かせないことを、わたしはよく知っている。
20 わたしはこの手を伸ばし、エジプトのただ中であらゆる不思議を行い、エジプトを打つ。その後で、彼はあなたがたを去らせる。
21 わたしは、エジプトがこの民に好意を持つようにする。あなたがたが出て行くとき、何も持たずに出て行くことはない。
22 女はみな、近所の女、および自分の家に身を寄せている女に、銀の飾り、金の飾り、そして衣服を求め、それを、自分の息子や娘の身に着けさせなさい。こうしてあなたがたは、エジプト人からはぎ取りなさい。」

第4章

1 モーセは答えた。「ですが、彼らは私の言うことを信じず、私の声に耳を傾けないでしょう。むしろ、『主はあなたに現れなかった』と言うでしょう。」
2 主は彼に言われた。「あなたが手に持っているものは何か。」彼は答えた。「杖です。」
3 すると言われた。「それを地に投げよ。」彼はそれを地に投げた。すると、それは蛇になった。モーセはそれから身を引いた。
4 主はモーセに言われた。「手を伸ばして、その尾をつかめ。」彼が手を伸ばしてそれを握ると、それは手の中で杖になった。
5 「これは、彼らの父祖の神、アブラハムの神、イサクの神、ヤコブの神、主があなたに現れたことを、彼らが信じるためである。」
6 主はまた、彼に言われた。「手を懐に入れよ。」彼は手を懐に入れた。そして出した。なんと、彼の手はツァラアトに冒され、雪のようになっていた。
7 また主は言われた。「あなたの手をもう一度懐に入れよ。」そこで彼はもう一度、手を懐に入れた。そして懐から出した。なんと、それは再び自分の肉のようになっていた。

8 「たとえ彼らがあなたを信じず、また初めのしるしの声に聞き従わなくても、後のしるしの声
は信じるであろう。
9 もしも彼らがこの二つのしるしを両方とも信じず、あなたの声に聞き従わないなら、ナイル川
の水を汲んで、乾いた地面に注ぎなさい。あなたがナイル川から汲んだその水は、乾いた地面
の上で血となる。」
10 モーセは主に言った。「ああ、わが主よ、私はことばの人ではありません。以前からそうでし
たし、あなたがしもべに語られてからもそうです。私は口が重く、舌が重いのです。」
11 主は彼に言われた。「人に口をつけたのはだれか。だれが口をきけなくし、耳をふさぎ、目を
開け、また閉ざすのか。それは、わたし、主ではないか。
12 今、行け。わたしがあなたの口とともにあって、あなたが語るべきことを教える。」
13 すると彼は言った。「ああ、わが主よ、どうかほかの人を遣わしてください。」
14 すると、主の怒りがモーセに向かって燃え上がり、こう言われた。「あなたの兄、レビ人アロ
ンがいるではないか。わたしは彼が雄弁であることをよく知っている。見よ、彼はあなたに会
いに出て来ている。あなたに会えば、心から喜ぶだろう。
15 彼に語り、彼の口にことばを置け。わたしはあなたの口とともにあり、また彼の口とともにあ
って、あなたがたがなすべきことを教える。
16 彼があなたに代わって民に語る。彼があなたにとって口となり、あなたは彼にとって神の代わ
りとなる。
17 また、あなたはこの杖を手に取り、これでしるしを行わなければならない。」
18 そこでモーセは行って、しゅうとイテロのもとに帰り、彼に言った。「どうか私をエジプトに
いる同胞のもとに帰らせ、彼らがまだ生きながらえているかどうか、見させてください。」イ
テロはモーセに言った。「安心して行きなさい。」
19 主はミディアンでモーセに言われた。「さあ、エジプトに帰れ。あなたのいのちを取ろうとし
ていた者は、みな死んだ。」
20 そこでモーセは妻や息子たちを連れ、彼らをろばに乗せて、エジプトの地へ帰って行った。モ
ーセは神の杖を手に取った。
21 主はモーセに言われた。「あなたがエジプトに帰ったら、わたしがあなたの手に授けたすべて
の不思議を心に留め、それをファラオの前で行え。しかし、わたしが彼の心を頑なにするの
で、彼は民を去らせない。
22 そのとき、あなたはファラオに言わなければならない。 主はこう言われる。『イスラエルは
わたしの子、わたしの長子である。
23 わたしはあなたに言う。わたしの子を去らせて、彼らがわたしに仕えるようにせよ。もし去ら
せるのを拒むなら、見よ、わたしはあなたの子、あなたの長子を殺す。』」
24 さて、途中、一夜を明かす場所でのことだった。主はモーセに会い、彼を殺そうとされた。
25 そのとき、ツィポラは火打石を取って、自分の息子の包皮を切り取り、モーセの両足に付けて
言った。「まことに、あなたは私には血の花婿です。」
26 すると、主はモーセを放された。彼女はそのとき、割礼のゆえに「血の花婿」と言ったのであ
る。
27 さて、主はアロンに言われた。「荒野に行って、モーセに会え。」彼は行って、神の山でモー
セに会い、口づけした。

28 モーセは、自分を遣わすときに主が語られたことばのすべてと、彼に命じられたしるしのすべてを、アロンに告げた。
29 それからモーセとアロンは行って、イスラエルの子らの長老たちをみな集めた。
30 アロンは、主がモーセに語られたことばをみな語り、民の目の前でしるしを行った。
31 民は信じた。彼らは、主がイスラエルの子らを顧み、その苦しみをご覧になったことを聞き、ひざまずいて礼拝した。

第5章

1 その後、モーセとアロンはファラオのところに行き、そして言った。「イスラエルの神、主はこう仰せられます。『わたしの民を去らせ、荒野でわたしのために祭りを行えるようにせよ。』」
2 ファラオは答えた。「主とは何者だ。私がその声を聞いて、イスラエルを去らせなければならないとは。私は主を知らない。イスラエルは去らせない。」
3 彼らは言った。「ヘブル人の神が私たちと会ってくださいました。どうか私たちに荒野へ三日の道のりを行かせて、私たちの神、主にいけにえを献げさせてください。そうでないと、主は疫病か剣で私たちを打たれます。」
4 エジプトの王は彼らに言った。「モーセとアロンよ、なぜおまえたちは、民を仕事から引き離そうとするのか。おまえたちの労役に戻れ。」
5 ファラオはまた言った。「見よ、今やこの地の民は多い。だからおまえたちは、彼らに労役をやめさせようとしているのだ。」
6 その日、ファラオはこの民の監督たちとかしらたちに命じた。
7 「おまえたちは、れんがを作るために、もはやこれまでのように民に藁を与えてはならない。彼らが行って、自分で藁を集めるようにさせよ。
8 しかも、これまでどおりの量のれんがを作らせるのだ。減らしてはならない。彼らは怠け者だ。だから、『私たちの神に、いけにえを献げに行かせてください』などと言って叫んでいるのだ。
9 あの者たちの労役を重くしたうえで、その仕事をやらせよ。偽りのことばに目を向けさせるな。」
10 そこで、この民の監督たちとかしらたちは出て行って、民に告げた。「ファラオはこう言われる。『もうおまえたちに藁は与えない。
11 おまえたちはどこへでも行って、見つけられるところから自分で藁を取って来い。労役は少しも減らすことはしない。』」
12 そこで民はエジプト全土に散って、藁の代わりに刈り株を集めた。
13 監督たちは彼らをせき立てた。「藁があったときのように、その日その日の仕事を仕上げよ。」
14 ファラオの監督たちがこの民の上に立てた、イスラエルの子らのかしらたちは、打ちたたかれてこう言われた。「なぜ、おまえたちは決められた量のれんがを、昨日も今日も、今までどおりに仕上げないのか。」
15 そこで、イスラエルの子らのかしらたちは、ファラオのところに行って、叫んだ。「なぜ、あなた様はしもべどもに、このようなことをなさるのですか。

16 しもべどもには藁が与えられていません。それでも、『れんがを作れ』と言われています。ご覧ください。しもべどもは打たれています。でも、いけないのはあなた様の民のほうです。」
17 ファラオは言った。「おまえたちは怠け者だ。怠け者なのだ。だから『私たちの主にいけにえを献げに行かせてください』などと言っているのだ。
18 今すぐに行って働け。おまえたちに藁は与えない。しかし、おまえたちは決められた分のれんがを納めなければならない。」
19 イスラエルの子らのかしらたちは、「おまえたちにその日その日に課せられた、れんがの量を減らしてはならない」と聞かされて、これは悪いことになったと思った。
20 彼らは、ファラオのところから出て来たとき、迎えに来ていたモーセとアロンに会った。
21 彼らは二人に言った。「主があなたがたを見て、さばかれますように。あなたがたは、ファラオとその家臣たちの目に私たちを嫌わせ、私たちを殺すため、彼らの手に剣を渡してしまったのです。」
22 それでモーセは主のもとに戻り、そして言った。「主よ、なぜ、あなたはこの民をひどい目にあわせられるのですか。いったい、なぜあなたは私を遣わされたのですか。
23 私がファラオのところに行って、あなたの御名によって語って以来、彼はこの民を虐げています。それなのに、あなたは、あなたの民を一向に救い出そうとはなさいません。」

第6章

1 主はモーセに言われた。「あなたには、わたしがファラオにしようとしていることが今に分かる。彼は強いられてこの民を去らせ、強いられてこの民を自分の国から追い出すからだ。」
2 神はモーセに語り、彼に仰せられた。「わたしは主である。
3 わたしは、アブラハム、イサク、ヤコブに全能の神として現れたが、主という名では、彼らにわたしを知らせなかった。
4 わたしはまた、カナンの地、彼らがとどまった寄留の地を彼らに与えるという契約を彼らと立てた。
5 今わたしは、エジプトが奴隷として仕えさせているイスラエルの子らの嘆きを聞き、わたしの契約を思い起こした。
6 それゆえ、イスラエルの子らに言え。『わたしは主である。わたしはあなたがたをエジプトの苦役から導き出す。あなたがたを重い労働から救い出し、伸ばされた腕と大いなるさばきによって贖う。
7 わたしはあなたがたを取ってわたしの民とし、わたしはあなたがたの神となる。あなたがたは、わたしがあなたがたの神、主であり、あなたがたをエジプトでの苦役から導き出す者であることを知る。
8 わたしは、アブラハム、イサク、ヤコブに与えると誓ったその地にあなたがたを連れて行き、そこをあなたがたの所有地として与える。わたしは主である。』」
9 モーセはこのようにイスラエルの子らに語ったが、彼らは失意と激しい労働のために、モーセの言うことを聞くことができなかった。
10 主はモーセに告げられた。
11 「エジプトの王ファラオのところへ行って、イスラエルの子らをその国から去らせるように告げよ。」

12 しかし、モーセは主の前で訴えた。「ご覧ください。イスラエルの子らは私の言うことを聞きませんでした。どうしてファラオが私の言うことを聞くでしょうか。しかも、私は口べたなのです。」
13 主はモーセとアロンに語り、イスラエルの子らをエジプトの地から導き出すよう、イスラエルの子らとエジプトの王ファラオについて彼らに命じられた。
14 彼らの一族のかしらたちは次のとおりである。イスラエルの長子ルベンの子はハノク、パル、ヘツロン、カルミで、これらがルベン族である。
15 シメオンの子はエムエル、ヤミン、オハデ、ヤキン、ツォハル、およびカナンの女から生まれたシャウルで、これらがシメオン族である。
16 家系にしたがって記すと、レビの子の名は次のとおり。ゲルション、ケハテ、メラリ。レビが生きた年月は百三十七年であった。
17 ゲルションの子は、氏族ごとに言うと、リブニとシムイである。
18 ケハテの子はアムラム、イツハル、ヘブロン、ウジエルである。ケハテが生きた年月は百三十三年であった。
19 メラリの子はマフリとムシである。これらが、彼らの家系によるレビ人の諸氏族である。
20 アムラムは自分の叔母ヨケベデを妻にした。彼女はアロンとモーセを産んだ。アムラムが生きた年月は百三十七年であった。
21 イツハルの子はコラ、ネフェグ、ジクリである。
22 ウジエルの子はミシャエル、エルツァファン、シテリである。
23 アロンは、アミナダブの娘でナフションの妹であるエリシェバを妻にし、彼女はアロンにナダブとアビフ、エルアザルとイタマルを産んだ。
24 コラの子はアシル、エルカナ、アビアサフで、これらがコラ人の諸氏族である。
25 アロンの子エルアザルは、プティエルの娘の一人を妻とし、彼女はピネハスを産んだ。これらがレビ人の諸氏族の、一族のかしらたちである。
26 このアロンとモーセに主は、「イスラエルの子らを軍団ごとにエジプトの地から導き出せ」と言われたのであった。
27 エジプトの王ファラオに向かって、イスラエルの子らをエジプトから導き出すようにと言ったのも、このモーセとアロンである。
28 主がエジプトの地でモーセに語られたときに、
29 主はモーセに告げられた。「わたしは主である。わたしがあなたに語ることをみな、エジプトの王ファラオに告げよ。」
30 しかし、モーセは主の前で言った。「ご覧ください。私は口べたです。どうしてファラオが私の言うことを聞くでしょうか。」

第7章

1 主はモーセに言われた。「見よ、わたしはあなたをファラオにとって神とする。あなたの兄アロンがあなたの預言者となる。
2 あなたはわたしの命じることを、ことごとく告げなければならない。あなたの兄アロンはファラオに、イスラエルの子らをその地から去らせるようにと告げなければならない。

3 わたしはファラオの心を頑なにし、わたしのしるしと不思議をエジプトの地で数多く行う。
4 しかし、ファラオはあなたがたの言うことを聞き入れない。そこで、わたしはエジプトに手を
下し、大いなるさばきによって、わたしの軍団、わたしの民イスラエルの子らをエジプトの地
から導き出す。
5 わたしが手をエジプトの上に伸ばし、イスラエルの子らを彼らのただ中から導き出すとき、エ
ジプトは、わたしが主であることを知る。」
6 そこでモーセとアロンはそのように行った。主が彼らに命じられたとおりに行った。
7 彼らがファラオに語ったとき、モーセは八十歳、アロンは八十三歳であった。
8 また主はモーセとアロンに言われた。
9 「ファラオがあなたがたに『おまえたちの不思議を行え』と言ったら、あなたはアロンに『そ
の杖を取って、ファラオの前に投げよ』と言え。それは蛇になる。」
10 モーセとアロンはファラオのところに行き、主が命じられたとおりに行った。アロンは自分の
杖をファラオとその家臣たちの前に投げた。すると、それは蛇になった。
11 そこで、ファラオも知恵のある者と呪術者を呼び寄せた。これらエジプトの呪法師たちもま
た、彼らの秘術を使って同じことをした。
12 彼らがそれぞれ自分の杖を投げると、それは蛇になった。しかし、アロンの杖は彼らの杖を呑
み込んだ。
13 それでもファラオの心は頑なになり、彼らの言うことを聞き入れなかった。主が言われたとお
りであった。
14 主はモーセに言われた。「ファラオの心は硬く、民を去らせることを拒んでいる。
15 あなたは朝、ファラオのところへ行け。見よ、彼は水辺に出て来る。あなたはナイル川の岸に
立って、彼を迎えよ。そして、蛇に変わったその杖を手に取り、
16 彼に言え。『ヘブル人の神、主が私をあなたに遣わして言われました。わたしの民を去らせ、
彼らが荒野でわたしに仕えるようにせよ、と。しかし、ご覧ください。あなたは今までお聞き
になりませんでした。
17 主はこう言われます。あなたは、次のことによって、わたしが主であることを知る、と。ご覧
ください。私は手に持っている杖でナイル川の水を打ちます。すると、水は血に変わり、
18 ナイル川の魚は死に、ナイル川は臭くなります。それで、エジプト人はナイル川の水を飲むの
に耐えられなくなります。』」
19 主はモーセに言われた。「アロンに言え。『あなたの杖を取り、手をエジプトの水の上、その
川、水路、池、すべての貯水池の上に伸ばしなさい。そうすれば、それらは血となり、エジプ
ト全土で木の器や石の器にも血があるようになる。』」
20 モーセとアロンは主が命じられたとおりに行った。モーセはファラオとその家臣たちの目の前
で杖を上げ、ナイル川の水を打った。すると、ナイル川の水はすべて血に変わった。
21 ナイル川の魚は死に、ナイル川は臭くなり、エジプト人はナイル川の水を飲めなくなった。エ
ジプト全土にわたって血があった。
22 しかし、エジプトの呪法師たちも彼らの秘術を使って同じことをした。それで、ファラオの心
は頑なになり、彼らの言うことを聞き入れなかった。主が言われたとおりであった。
23 ファラオは身を翻して自分の家に入り、このことにも心を向けなかった。

24 全エジプトは飲み水を求めて、ナイル川の周辺を掘った。ナイル川の水が飲めなかったからである。
25 主がナイル川を打たれてから七日が満ちた。

第8章

1 主はモーセに言われた。「ファラオのもとに行って言え。 主はこう言われる。『わたしの民を去らせ、彼らがわたしに仕えるようにせよ。
2 もしあなたが去らせることを拒むなら、見よ、わたしはあなたの全領土を蛙によって打つ。
3 ナイル川には蛙が群がり、這い上がって来て、あなたの家に、寝室に入って、寝台に上り、またあなたの家臣の家に、あなたの民の中に、さらに、あなたのかまど、こね鉢に入り込む。
4 こうして蛙が、あなたと、あなたの民とすべての家臣の上に這い上がる。』」
5 主はモーセに言われた。「アロンに言え。『杖を持って、あなたの手を川の上、水路の上、池の上に伸ばせ。そして蛙をエジプトの地に這い上がらせよ』と。」
6 アロンが手をエジプトの水の上に伸ばすと、蛙が這い上がって、エジプトの地をおおった。
7 呪法師たちも彼らの秘術を使って、同じように行った。彼らは蛙をエジプトの地の上に這い上がらせた。
8 ファラオはモーセとアロンを呼び寄せて言った。「私と私の民のところから蛙を除くように、主に祈れ。そうすれば、私はこの民を去らせる。主にいけにえを献げるがよい。」
9 モーセはファラオに言った。「蛙があなたとあなたの家から断たれ、ナイル川だけに残るようにするため、私が、あなたと、あなたの家臣と民のために祈るので、いつがよいかを指示してください。」
10 ファラオが「明日」と言ったので、モーセは言った。「あなたのことばどおりになりますように。それは、あなたが、私たちの神、主のような方はほかにいないことを知るためです。
11 蛙は、あなたと、あなたの家、家臣、民から離れて、ナイル川だけに残るでしょう。」
12 こうしてモーセとアロンはファラオのもとから出て行った。モーセは、自分がファラオに約束した蛙のことで主に叫んだ。
13 主がモーセのことばどおりにされたので、蛙は家と庭と畑から死に絶えた。
14 人々はそれらを山のように積み上げたので、地は悪臭で満ちた。
15 ところが、ファラオは一息つけると思うと、心を硬くし、彼らの言うことを聞き入れなかった。主が言われたとおりであった。
16 主はモーセに言われた。「アロンに言え。『あなたの杖を伸ばして、地のちりを打て。そうすれば、ちりはエジプトの全土でブヨとなる』と。」
17 彼らはそのように行った。アロンは杖を持って手を伸ばし、地のちりを打った。すると、ブヨが人や家畜に付いた。地のちりはみな、エジプト全土でブヨとなった。
18 呪法師たちも、ブヨを出そうと彼らの秘術を使って同じようにしたが、できなかった。ブヨは人や家畜に付いた。
19 呪法師たちはファラオに「これは神の指です」と言った。しかし、ファラオの心は頑なになり、彼らの言うことを聞き入れなかった。主が言われたとおりであった。

20 主はモーセに言われた。「明日の朝早く、ファラオの前に出よ。見よ、彼は水辺に出て来る。
彼にこう言え。 主はこう言われる。『わたしの民を去らせ、彼らがわたしに仕えるようにせ
よ。
21 もしもわたしの民を去らせないなら、わたしは、あなたと、あなたの家臣と民、そしてあなた
の家々にアブの群れを送る。エジプトの家々も、彼らのいる地面も、アブの群れで満ちる。
22 わたしはその日、わたしの民がとどまっているゴシェンの地を特別に扱い、そこにはアブの群
れがいないようにする。こうしてあなたは、わたしがその地のただ中にあって主であることを
知る。
23 わたしは、わたしの民をあなたの民と区別して、贖いをする。明日、このしるしが起こ
る。』」
24 主はそのようにされた。おびただしいアブの群れが、ファラオの家とその家臣の家に入って来
た。エジプトの全土にわたり、地はアブの群れによって荒れ果てた。
25 ファラオはモーセとアロンを呼び寄せて言った。「さあ、この国の中でおまえたちの神にいけ
にえを献げよ。」
26 モーセは答えた。「それは、ふさわしいことではありません。なぜなら私たちは、私たちの
神、主に、エジプト人の忌み嫌うものを、いけにえとして献げるからです。もし私たちがエジ
プト人の忌み嫌うものを、彼らの目の前でいけにえとして献げるなら、彼らは私たちを石で打
ち殺しはしないでしょうか。
27 私たちは、主が私たちに言われたとおり、荒野へ三日の道のりを行って、私たちの神、主にい
けにえを献げなければなりません。」
28 ファラオは言った。「では、おまえたちを去らせよう。おまえたちは荒野で、おまえたちの
神、主にいけにえを献げるがよい。ただ、決して遠くへ行ってはならない。私のために祈って
くれ。」
29 モーセは言った。「今、私はあなたのもとから出て行き、主に祈ります。明日、アブが、ファ
ラオとその家臣と民から離れます。ただ、ファラオは、民が主にいけにえを献げるために去る
ことを阻んで、再び欺くことなどありませんように。」
30 モーセはファラオのもとから出て行って、主に祈った。
31 主はモーセのことばどおりにされた。アブは一匹残らず、ファラオとその家臣、および民から
離れた。
32 しかし、ファラオはまたも心を硬くし、民を去らせなかった。

第9章

1 主はモーセに言われた。「ファラオのところに行って、彼に言え。 ヘブル人の神、主はこう
言われる。『わたしの民を去らせ、彼らがわたしに仕えるようにせよ。
2 もしあなたが去らせることを拒み、なおも彼らをとどめておくなら、
3 見よ、主の手が、野にいるあなたの家畜、馬、ろば、らくだ、牛、羊の上に下り、非常に重い
疫病が起こる。
4 しかし、主はイスラエルの家畜とエジプトの家畜を区別するので、イスラエルの子らの家畜は
一頭も死なない。』」
5 また、主は時を定めて言われた。「明日、主がこの地でこのことを行う。」

6 主は翌日そのようにされた。エジプトの家畜はことごとく死んだが、イスラエルの子らの家畜
は一頭も死ななかった。
7 ファラオは使いを送った。すると見よ、イスラエルの家畜は一頭も死んでいなかった。それで
もファラオの心は硬く、民を去らせなかった。
8 主はモーセとアロンに言われた。「あなたがたは、かまどのすすを両手いっぱいに取れ。モー
セはファラオの前で、それを天に向けてまき散らせ。
9 それはエジプト全土にわたって、ほこりとなり、エジプト全土で人と家畜に付き、うみの出る
腫れものとなる。」
10 それで彼らは、かまどのすすを取ってファラオの前に立ち、モーセはそれを天に向けてまき散
らした。すると、それは人と家畜に付き、うみの出る腫れものとなった。
11 呪法師たちは、腫れもののためにモーセの前に立てなかった。腫れものが呪法師たちとすべて
のエジプト人にできたからである。
12 しかし、主はファラオの心を頑なにされたので、ファラオは二人の言うことを聞き入れなかっ
た。主がモーセに言われたとおりであった。
13 主はモーセに言われた。「明日の朝早く、ファラオの前に立ち、彼に言え。 ヘブル人の神、
主はこう言われる。『わたしの民を去らせ、彼らがわたしに仕えるようにせよ。
14 今度、わたしは、あなた自身とあなたの家臣と民に、わたしのすべての災害を送る。わたしの
ような者が地のどこにもいないことを、あなたが知るようになるためである。
15 実に今でも、わたしが手を伸ばし、あなたとあなたの民を疫病で打つなら、あなたは地から消
し去られる。
16 しかし、このことのために、わたしはあなたを立てておいた。わたしの力をあなたに示すた
め、そうして、わたしの名を全地に知らしめるためである。
17 あなたはなお、わたしの民に向かっておごり高ぶり、彼らを去らせようとしない。
18 見よ。明日の今ごろ、わたしは、国が始まってから今に至るまで、エジプトになかったような
非常に激しい雹を降らせる。
19 さあ今、使いを送って、あなたの家畜と、野にいるあなたのすべてのものを避難させよ。野に
残されて家に連れ戻されなかった人や家畜はみな、雹に打たれて死ぬ。』」
20 ファラオの家臣のうちで主のことばを恐れた者は、しもべたちと家畜を家に避難させた。
21 しかし、主のことばを心に留めなかった者は、しもべたちと家畜をそのまま野に残しておい
た。
22 そこで主はモーセに言われた。「あなたの手を天に向けて伸ばせ。そうすれば、エジプト全土
にわたって、人にも家畜にも、またエジプトの地のすべての野の草の上にも、雹が降る。」
23 モーセが杖を天に向けて伸ばすと、主は雷と雹を送ったので、火が地に向かって走った。こう
して主はエジプトの地に雹を降らせた。
24 雹が降り、火が雹のただ中をひらめき渡った。それは、エジプトの地で国が始まって以来どこ
にもなかったような、きわめて激しいものであった。
25 雹はエジプト全土にわたって、人から家畜に至るまで、野にいるすべてのものを打った。また
その雹は、あらゆる野の草も打った。野の木もことごとく打ち砕いた。
26 ただ、イスラエルの子らが住むゴシェンの地には、雹は降らなかった。

27 ファラオは人を遣わしてモーセとアロンを呼び寄せ、彼らに言った。「今度は私が間違っていた。主が正しく、私と私の民が悪かった。
28 主に祈ってくれ。神の雷と雹は、もうたくさんだ。私はおまえたちを去らせよう。おまえたちはもう、とどまっていてはならない。」
29 モーセは彼に言った。「私が町を出たら、すぐに主に向かって手を伸べ広げましょう。雷はやみ、雹はもう降らなくなります。この地が主のものであることをあなたが知るためです。
30 しかし、あなたとあなたの家臣はまだ、神である主を恐れていないことを、私はよく知っています。」
31 亜麻と大麦は打ち倒されていた。大麦は穂を出し、亜麻はつぼみをつけていたからである。
32 しかし、小麦と裸麦は打ち倒されていなかった。これらは実るのが遅いからである。
33 モーセはファラオのもとを去り、町を出て、主に向かって両手を伸べ広げた。すると雷と雹はやみ、雨はもう地に降らなくなった。
34 ファラオは雨と雹と雷がやんだのを見て、またも罪に身を任せ、彼とその家臣たちはその心を硬くした。
35 ファラオは心を頑なにし、イスラエルの子らを去らせなかった。主がモーセを通して言われたとおりであった。

第10章

1 主はモーセに言われた。「ファラオのところに行け。わたしは彼とその家臣たちの心を硬くした。それは、わたしが、これらのしるしを彼らの中で行うためである。
2 また、わたしがエジプトに対して力を働かせたあのこと、わたしが彼らの中で行ったしるしを、あなたが息子や孫に語って聞かせるためである。こうしてあなたがたは、わたしが主であることを知る。」
3 モーセとアロンはファラオのところに行き、彼に向かって言った。「ヘブル人の神、主はこう言われます。『いつまで、わたしの前に身を低くするのを拒むのか。わたしの民を去らせ、彼らがわたしに仕えるようにせよ。
4 もしあなたが、わたしの民を去らせることを拒むなら、見よ、わたしは明日、いなごをあなたの領土に送る。
5 いなごが地の面をおおい、地は見えなくなる。また、雹の害を免れてあなたがたに残されているものを食い尽くし、野に生えているあなたがたの木をみな食い尽くし、
6 あなたの家とすべての家臣の家、および全エジプトの家に満ちる。これは、あなたの先祖も、またその先祖も、彼らがこの土地にあった日から今日に至るまで、見たことがないものである。』」こうして彼は身を翻してファラオのもとから出て行った。
7 家臣たちはファラオに言った。「この男は、いつまで私たちを陥れるのでしょうか。この者たちを去らせ、彼らの神、主に仕えさせてください。エジプトが滅びるのが、まだお分かりにならないのですか。」
8 モーセとアロンはファラオのところに連れ戻された。ファラオは彼らに言った。「行け。おまえたちの神、主に仕えよ。だが、行くのはだれとだれか。」
9 モーセは答えた。「若い者も年寄りも一緒に行きます。息子たちも娘たちも、羊の群れも牛の群れも一緒に行きます。私たちは主の祭りをするのですから。」

10 ファラオは彼らに言った。「私がおまえたちとおまえたちの妻子を行かせるようなときには、主がおまえたちとともにあるように、とでも言おう。だが、見ろ。悪意がおまえたちの顔に表れている。
11 そうはさせない。さあ、壮年の男子だけが行って、主に仕えよ。それが、おまえたちが求めていることではないか。」こうして彼らはファラオの前から追い出された。
12 主はモーセに言われた。「あなたの手をエジプトの地の上に伸ばし、いなごの大群がエジプトの地を襲い、その国のあらゆる草木、雹の害を免れたすべてのものを食い尽くすようにせよ。」
13 モーセはエジプトの地の上に杖を伸ばした。主は終日終夜、その地の上に東風を吹かせた。朝になると東風がいなごの大群を運んで来た。
14 いなごの大群はエジプト全土を襲い、エジプト全域にとどまった。これは、かつてなく、この後もないほどおびただしいいなごの大群だった。
15 それらが全地の表面をおおったので、地は暗くなり、いなごは地の草と、雹の害を免れた木の実をすべて食い尽くした。エジプト全土で、木や野の草に少しの緑も残らなかった。
16 ファラオは急いでモーセとアロンを呼んで言った。「私は、おまえたちの神、主とおまえたちに対して過ちを犯した。
17 どうか今、もう一度だけ私の罪を見逃してくれ。おまえたちの神、主に、こんな死だけは取り去ってくれるよう祈ってくれ。」
18 モーセはファラオのところから出て、主に祈った。
19 すると主は風向きを変え、非常に強い、海からの風とされた。風はいなごを吹き上げ、葦の海に追いやった。エジプト全域に一匹のいなごも残らなかった。
20 しかし、主がファラオの心を頑なにされたので、彼はイスラエルの子らを去らせなかった。
21 主はモーセに言われた。「あなたの手を天に向けて伸ばし、闇がエジプトの地の上に降りて来て、闇にさわれるほどにせよ。」
22 モーセが天に向けて手を伸ばすと、エジプト全土は三日間、真っ暗闇となった。
23 人々は三日間、互いに見ることも、自分のいる場所から立つこともできなかった。しかし、イスラエルの子らのすべてには、住んでいる所に光があった。
24 ファラオはモーセを呼んで言った。「行け。主に仕えるがよい。ただ、おまえたちの羊と牛は残しておけ。妻子はおまえたちと一緒に行ってもよい。」
25 モーセは言った。「あなた自身が、いけにえと全焼のささげ物を直接私たちに下さって、私たちが、自分たちの神、主にいけにえを献げられるようにしなければなりません。
26 私たちの家畜も私たちと一緒に行きます。ひづめ一つ残すことはできません。私たちの神、主に仕えるために、家畜の中から選ばなければならないからです。しかも、あちらに着くまでは、どれをもって主に仕えるべきか分からないのです。」
27 しかし、主がファラオの心を頑なにされたので、ファラオは彼らを去らせようとはしなかった。
28 ファラオは彼に言った。「私のところから出て行け。私の顔を二度と見ないように気をつけろ。おまえが私の顔を見たら、その日に、おまえは死ななければならない。」
29 モーセは言った。「けっこうです。私はもう二度とあなたのお顔を見ることはありません。」

第11章

1 主はモーセに言われた。「わたしはファラオとエジプトの上に、もう一つのわざわいを下す。
その後で彼は、あなたがたをここから去らせる。彼があなたがたを去らせるときには、本当に
一人残らず、あなたがたをここから追い出す。
2 さあ、民に言って聞かせよ。男は隣の男に、女は隣の女に、銀の飾りや金の飾りを求めるよう
に。」
3 主は、エジプトがこの民に好意を持つようにされた。モーセその人も、エジプトの地でファラ
オの家臣と民にたいへん尊敬された。
4 モーセは言った。「主はこう言われます。『真夜中ごろ、わたしはエジプトの中に出て行く。
5 エジプトの地の長子は、王座に着いているファラオの長子から、ひき臼のうしろにいる女奴隷
の長子、それに家畜の初子に至るまで、みな死ぬ。
6 そして、エジプト全土にわたって大きな叫びが起こる。このようなことは、かつてなく、また
二度とない。』
7 しかし、イスラエルの子らに対しては、犬でさえ、人だけでなく家畜にも、だれに対してもう
なりはしません。こうして主がエジプトとイスラエルを区別されることを、あなたがたは知る
ようになります。
8 あなたのこの家臣たちはみな、私のところに下って来て、私にひれ伏し、『あなたもあなたに
従う民もみな、出て行ってください』と言うでしょう。その後私は出て行きます。」こうして
、モーセは怒りに燃えてファラオのところから出て行った。
9 主はモーセに言われた。「ファラオはあなたがたの言うことを聞き入れない。わたしの奇跡が
エジプトの地で大いなるものとなるためである。」
10 モーセとアロンは、ファラオの前でこれらの奇跡をすべて行った。主はファラオの心を頑なに
され、ファラオはイスラエルの子らを自分の国から去らせなかった。

第12章

1 主はエジプトの地でモーセとアロンに言われた。
2 「この月をあなたがたの月の始まりとし、これをあなたがたの年の最初の月とせよ。
3 イスラエルの全会衆に次のように告げよ。 この月の十日に、それぞれが一族ごとに羊を、す
なわち家ごとに羊を用意しなさい。
4 もしその家族が羊一匹の分より少ないのであれば、その人はすぐ隣の家の人と、人数に応じて
取り分けなさい。一人ひとりが食べる分量に応じて、その羊を分けなければならない。
5 あなたがたの羊は、傷のない一歳の雄でなければならない。それを子羊かやぎのうちから取ら
なければならない。
6 あなたがたは、この月の十四日まで、それをよく見守る。そしてイスラエルの会衆の集会全体
は夕暮れにそれを屠り、
7 その血を取り、羊を食べる家々の二本の門柱と鴨居に塗らなければならない。
8 そして、その夜、その肉を食べる。それを火で焼いて、種なしパンと苦菜を添えて食べなけれ
ばならない。

9 生のままで、または、水に入れて煮て食べてはならない。その頭も足も内臓も火で焼かなければならない。
10 それを朝まで残してはならない。朝まで残ったものは燃やさなければならない。
11 あなたがたは、次のようにしてそれを食べなければならない。腰の帯を固く締め、足に履き物をはき、手に杖を持って、急いで食べる。これは主への過越のいけにえである。
12 その夜、わたしはエジプトの地を巡り、人から家畜に至るまで、エジプトの地のすべての長子を打ち、また、エジプトのすべての神々にさばきを下す。わたしは主である。
13 その血は、あなたがたがいる家の上で、あなたがたのためにしるしとなる。わたしはその血を見て、あなたがたのところを過ぎ越す。わたしがエジプトの地を打つとき、滅ぼす者のわざわいは、あなたがたには起こらない。
14 この日は、あなたがたにとって記念となる。あなたがたはその日を主への祭りとして祝い、代々守るべき永遠の掟として、これを祝わなければならない。
15 七日間、種なしパンを食べなければならない。その最初の日に、あなたがたの家からパン種を取り除かなければならない。最初の日から七日目までの間に、種入りのパンを食べる者は、みなイスラエルから断ち切られるからである。
16 また最初の日に聖なる会合を開き、七日目にも聖なる会合を開く。この期間中は、いかなる仕事もしてはならない。ただし、皆が食べる必要のあるものだけは作ることができる。
17 あなたがたは種なしパンの祭りを守りなさい。それは、まさにこの日に、わたしがあなたがたの軍団をエジプトの地から導き出したからである。あなたがたは永遠の掟として代々にわたって、この日を守らなければならない。
18 最初の月の十四日の夕方から、その月の二十一日の夕方まで、種なしパンを食べる。
19 七日間はあなたがたの家にパン種があってはならない。すべてパン種の入ったものを食べる者は、寄留者でも、この国に生まれた者でも、イスラエルの会衆から断ち切られる。
20 あなたがたは、パン種の入ったものは、いっさい食べてはならない。どこでも、あなたがたが住む所では、種なしパンを食べなければならない。」
21 それから、モーセはイスラエルの長老たちをみな呼び、彼らに言った。「さあ、羊をあなたがたの家族ごとに用意しなさい。そして過越のいけにえを屠りなさい。
22 ヒソプの束を一つ取って、鉢の中の血に浸し、その鉢の中の血を鴨居と二本の門柱に塗り付けなさい。あなたがたは、朝までだれ一人、自分の家の戸口から出てはならない。
23 主はエジプトを打つために行き巡られる。しかし、鴨居と二本の門柱にある血を見たら、主はその戸口を過ぎ越して、滅ぼす者があなたがたの家に入って打つことのないようにされる。
24 あなたがたはこのことを、あなたとあなたの子孫のための掟として永遠に守りなさい。
25 あなたがたは、主が約束どおりに与えてくださる地に入るとき、この儀式を守らなければならない。
26 あなたがたの子どもたちが『この儀式には、どういう意味があるのですか』と尋ねるとき、
27 あなたがたはこう答えなさい。『それは主の過越のいけにえだ。主がエジプトを打たれたとき、主はエジプトにいたイスラエルの子らの家を過ぎ越して、私たちの家々を救ってくださったのだ。』」すると民はひざまずいて礼拝した。
28 こうしてイスラエルの子らは行って、それを行った。主がモーセとアロンに命じられたとおりに行った。

29 真夜中になったとき、主はエジプトの地のすべての長子を、王座に着いているファラオの長子
から、地下牢にいる捕虜の長子に至るまで、また家畜の初子までもみな打たれた。
30 その夜、ファラオは彼の全家臣、またエジプト人すべてとともに起き上がった。そして、エジ
プトには激しく泣き叫ぶ声が起こった。それは死者のいない家がなかったからである。
31 彼はその夜、モーセとアロンを呼び寄せて言った。「おまえたちもイスラエル人も立って、私
の民の中から出て行け。おまえたちが言うとおりに、行って主に仕えよ。
32 おまえたちが言ったとおり、羊の群れも牛の群れも連れて出て行け。そして私のためにも祝福
を祈れ。」
33 エジプト人は民をせき立てて、その地から出て行くように迫った。人々が「われわれはみな死
んでしまう」と言ったからである。
34 それで民は、パン種を入れないままの生地を取り、こね鉢を衣服に包んで肩に担いだ。
35 イスラエルの子らはモーセのことばどおりに行い、エジプトに銀の飾り、金の飾り、そして衣
服を求めた。
36 主はエジプトがこの民に好意を持つようにされたので、エジプト人は彼らの求めを聞き入れ
た。こうして彼らはエジプトからはぎ取った。
37 イスラエルの子らはラメセスからスコテに向かって旅立った。女、子どもを除いて、徒歩の壮
年男子は約六十万人であった。
38 さらに、入り混じって来た多くの異国人と、羊や牛などおびただしい数の家畜も、彼らととも
に上った。
39 彼らはエジプトから携えて来た生地を焼いて、種なしのパン菓子を作った。それにはパン種が
入っていなかった。彼らはエジプトを追い出されてぐずぐずしてはいられず、また自分たちの
食糧の準備もできなかったからである。
40 イスラエルの子らがエジプトに滞在していた期間は、四百三十年であった。
41 四百三十年が終わった、ちょうどその日に、主の全軍団がエジプトの地を出た。
42 それは、彼らをエジプトの地から導き出すために、主が寝ずの番をされた夜であった。それで
この夜、イスラエルの子らはみな、代々にわたり、主のために寝ずの番をするのである。
43 主はモーセとアロンに言われた。「過越に関する掟は次のとおりである。異国人はだれも、こ
れにあずかってはならない。
44 しかし、金で買われた奴隷はだれでも、あなたが割礼を施せば、これにあずかることができ
る。
45 居留者と雇い人は、これにあずかってはならない。
46 これは一つの家の中で食べなければならない。あなたは家の外にその肉の一切れでも持ち出し
てはならない。また、その骨を折ってはならない。
47 イスラエルの全会衆はこれを行わなければならない。
48 もし、あなたのところに寄留者が滞在していて、主に過越のいけにえを献げようとするなら、
その人の家の男子はみな割礼を受けなければならない。そうすれば、その人は近づいてそれを
献げることができる。彼はこの国に生まれた者と同じになる。しかし無割礼の者は、だれもそ
れを食べてはならない。
49 このおしえは、この国に生まれた者にも、あなたがたの間に寄留している者にも同じである。」

50 イスラエルの子らはみな、そのように行った。主がモーセとアロンに命じられたとおりに行った。
51 まさにこの日に、主はイスラエルの子らを、軍団ごとにエジプトの地から導き出された。

第13章

1 主はモーセに告げられた。
2 「イスラエルの子らの間で最初に胎を開く長子はみな、人であれ家畜であれ、わたしのために聖別せよ。それは、わたしのものである。」
3 モーセは民に言った。「奴隷の家、エジプトから出て来た、この日を覚えていなさい。力強い御手で、主があなたがたをそこから導き出されたからである。種入りのパンを食べてはならない。
4 アビブの月のこの日、あなたがたは出発する。
5 主は、カナン人、ヒッタイト人、アモリ人、ヒビ人、エブス人の地、主があなたに与えると父祖たちに誓った地、乳と蜜の流れる地にあなたを連れて行かれる。そのときあなたは、この月に、この儀式を執り行いなさい。
6 七日間、あなたは種なしパンを食べる。七日目は主への祭りである。
7 七日間、種なしパンを食べなさい。あなたのところに、種入りのパンがあってはならない。あなたの土地のどこにおいても、あなたのところにパン種があってはならない。
8 その日、あなたは自分の息子に告げなさい。『このことは、私がエジプトから出て来たときに、主が私にしてくださったことによるのだ。』
9 これをあなたの手の上のしるしとし、あなたの額の上の記念として、主のおしえがあなたの口にあるようにしなさい。力強い御手で、主があなたをエジプトから導き出されたからである。
10 あなたは、この掟を毎年その定められた時に守らなければならない。
11 主が、あなたとあなたの父祖たちに誓われたとおりに、あなたをカナン人の地に導き、そこをあなたに与えられるとき、
12 最初に胎を開くものはみな、主のものとして献げなければならない。家畜から生まれ、あなたのものとなるすべての初子のうち、雄は主のものである。
13 ただし、ろばの初子はみな、羊で贖わなければならない。もし贖わないなら、首を折らなければならない。また、あなたの子どもたちのうち、男子の初子はみな、贖わなければならない。
14 後になって、あなたの息子があなたに『これは、どういうことですか』と尋ねるときは、こう言いなさい。『主が力強い御手によって、私たちを奴隷の家、エジプトから導き出された。
15 ファラオが頑なになって、私たちを解放しなかったとき、主はエジプトの地の長子をみな、人の長子から家畜の初子に至るまで殺された。それゆえ私は、最初に胎を開く雄をみな、いけにえとして主に献げ、私の子どもたちの長子をみな贖うのだ。』
16 このことは手の上のしるしとなり、あなたの額の上の記章となる。それは主が力強い御手によって、私たちをエジプトから導き出されたからである。」
17 さて、ファラオがこの民を去らせたとき、神は彼らを、近道であっても、ペリシテ人の地への道には導かれなかった。神はこう考えられた。「民が戦いを見て心変わりし、エジプトに引き返すといけない。」

18 それで神はこの民を、葦の海に向かう荒野の道に回らせた。イスラエルの子らは隊列を組んで
エジプトの地から上った。
19 モーセはヨセフの遺骸を携えていた。それはヨセフが、「神は必ずあなたがたを顧みてくださ
る。そのとき、あなたがたは私の遺骸をここから携え上らなければならない」と言って、イス
ラエルの子らに堅く誓わせていたからである。
20 彼らはスコテを旅立ち、荒野の端にあるエタムで宿営した。
21 主は、昼は、途上の彼らを導くため雲の柱の中に、また夜は、彼らを照らすため火の柱の中に
いて、彼らの前を進まれた。彼らが昼も夜も進んで行くためであった。
22 昼はこの雲の柱が、夜はこの火の柱が、民の前から離れることはなかった。

第14章

1 主はモーセに告げられた。
2 「イスラエルの子らに言え。引き返して、ミグドルと海の間にあるピ・ハヒロテに面したバア
ル・ツェフォンの手前で宿営せよ。あなたがたは、それに向かって海辺に宿営しなければなら
ない。
3 ファラオはイスラエルの子らについて、『彼らはあの地で迷っている。荒野は彼らを閉じ込め
てしまった』と言う。
4 わたしはファラオの心を頑なにするので、ファラオは彼らの後を追う。しかし、わたしはファ
ラオとその全軍勢によって栄光を現す。こうしてエジプトは、わたしが主であることを知
る。」イスラエルの子らはそのとおりにした。
5 民が去ったことがエジプトの王に告げられると、ファラオとその家臣たちは民に対する考えを
変えて言った。「われわれは、いったい何ということをしたのか。イスラエルをわれわれのた
めの労役から解放してしまったとは。」
6 そこでファラオは戦車を整え、自分でその軍勢を率い、
7 選り抜きの戦車六百、そしてエジプトの全戦車を、それぞれに補佐官をつけて率いて行った。
8 主がエジプトの王ファラオの心を頑なにされたので、ファラオはイスラエルの子らを追跡し
た。一方、イスラエルの子らは臆することなく出て行った。
9 エジプト人は彼らを追った。ファラオの戦車の馬も、騎兵も軍勢もことごとく、バアル・ツェ
フォンの前にあるピ・ハヒロテで、海辺に宿営している彼らに追いついた。
10 ファラオは間近に迫っていた。イスラエルの子らは目を上げた。すると、なんと、エジプト人
が彼らのうしろに迫っているではないか。イスラエルの子らは大いに恐れて、主に向かって叫
んだ。
11 そしてモーセに言った。「エジプトに墓がないからといって、荒野で死なせるために、あなた
はわれわれを連れて来たのか。われわれをエジプトから連れ出したりして、いったい何という
ことをしてくれたのだ。
12 エジプトであなたに『われわれのことにはかまわないで、エジプトに仕えさせてくれ』と言っ
たではないか。実際、この荒野で死ぬよりは、エジプトに仕えるほうがよかったのだ。」
13 モーセは民に言った。「恐れてはならない。しっかり立って、今日あなたがたのために行われ
る主の救いを見なさい。あなたがたは、今日見ているエジプト人をもはや永久に見ることはな
い。

14 主があなたがたのために戦われるのだ。あなたがたは、ただ黙っていなさい。」
15 主はモーセに言われた。「なぜ、あなたはわたしに向かって叫ぶのか。イスラエルの子らに、前進するように言え。
16 あなたは、あなたの杖を上げ、あなたの手を海の上に伸ばし、海を分けなさい。そうすれば、イスラエルの子らは海の真ん中の乾いた地面を行くことができる。
17 見よ、このわたしがエジプト人の心を頑なにする。彼らは後から入って来る。わたしはファラオとその全軍勢、戦車と騎兵によって、わたしの栄光を現す。
18 ファラオとその戦車とその騎兵によって、わたしが栄光を現すとき、エジプトは、わたしが主であることを知る。」
19 イスラエルの陣営の前を進んでいた神の使いは、移動して彼らのうしろを進んだ。それで、雲の柱は彼らの前から移動して彼らのうしろに立ち、
20 エジプトの陣営とイスラエルの陣営の間に入った。それは真っ暗な雲であった。それは夜を迷い込ませ、一晩中、一方の陣営がもう一方に近づくことはなかった。
21 モーセが手を海に向けて伸ばすと、主は一晩中、強い東風で海を押し戻し、海を乾いた地とされた。水は分かれた。
22 イスラエルの子らは、海の真ん中の乾いた地面を進んで行った。水は彼らのために右も左も壁になった。
23 エジプト人は追跡し、ファラオの馬も戦車も騎兵もみな、イスラエルの子らの後を海の中に入って行った。
24 朝の見張りのころ、主は火と雲の柱の中からエジプトの陣営を見下ろし、エジプトの陣営を混乱に陥れ、
25 戦車の車輪を外してその動きを阻んだ。それでエジプト人は言った。「イスラエルの前から逃げよう。主が彼らのためにエジプトと戦っているのだ。」
26 主はモーセに言われた。「あなたの手を海に向けて伸ばし、エジプト人と、その戦車、その騎兵の上に水が戻るようにせよ。」
27 モーセが手を海に向けて伸ばすと、夜明けに海が元の状態に戻った。エジプト人は迫り来る水から逃れようとしたが、主はエジプト人を海のただ中に投げ込まれた。
28 水は元に戻り、後を追って海に入ったファラオの全軍勢の戦車と騎兵をおおった。残った者は一人もいなかった。
29 イスラエルの子らは海の真ん中の乾いた地面を歩いて行った。水は彼らのために右も左も壁になっていた。
30 こうして主は、その日、イスラエルをエジプト人の手から救われた。イスラエルは、エジプト人が海辺で死んでいるのを見た。
31 イスラエルは、主がエジプトに行われた、この大いなる御力を見た。それで民は主を恐れ、主とそのしもべモーセを信じた。

第15章

1 そのとき、モーセとイスラエルの子らは、主に向かってこの歌を歌った。彼らはこう言った。「主に向かって私は歌おう。 主はご威光を極みまで現され、 馬と乗り手を海の中に投げ込まれた。

2 主は私の力、また、ほめ歌。 主は私の救いとなられた。 この方こそ、私の神。私はこの方を
ほめたたえる。 私の父の神。この方を私はあがめる。
3 主はいくさびと。 その御名は主。
4 主はファラオの戦車とその軍勢を 海の中に投げ込まれた。 選り抜きの補佐官たちは葦の海に
沈んだ。
5 深淵が彼らをおおい、 彼らは石のように深みに下った。
6 主よ、あなたの右の手は力に輝き、 主よ、あなたの右の手は敵を打ち砕く。
7 あなたは大いなるご威光によって、 向かい立つ者たちを打ち破られる。 あなたが燃える怒り
を発せられると、 それが彼らを刈り株のように焼き尽くす。
8 あなたの鼻の息で水は積み上げられ、 流れは堰のようにまっすぐに立ち、 大水は海の真ん中
で固まった。
9 敵は言った。 『追いかけ、追いつき、 略奪したものを分けよう。 わが欲望を彼らによって満
たそう。 剣を抜いて、この手で彼らを滅ぼそう。』
10 あなたが風を吹かせられると、 海は彼らをおおい、 彼らは鉛のように、大いなる水の中に沈
んだ。
11 主よ、神々のうちに、 だれかあなたのような方がいるでしょうか。 だれがあなたのように、
聖であって輝き、 たたえられつつ恐れられ、 奇しいわざを行う方がいるでしょうか。
12 あなたが右の手を伸ばされると、 地は彼らを呑み込んだ。
13 あなたが贖われたこの民を、 あなたは恵みをもって導き、 御力をもって、 あなたの聖なる住
まいに伴われた。
14 もろもろの民は聞いて震え、 ペリシテの住民も、もだえ苦しんだ。
15 そのとき、エドムの首長らは、おじ惑い、 モアブの有力者たちを震えが襲い、 カナンの住民
の心はみな溶け去った。
16 恐怖と戦慄が彼らに臨み、 あなたの偉大な御腕により、 彼らは石のように黙った。 主よ、あ
なたの民が通り過ぎるまで。 あなたが買い取られた民が通り過ぎるまで。
17 あなたは彼らを導き、 あなたのゆずりの山に植えられる。 主よ、御住まいのために、 あなた
がお造りになった場所に。 主よ、あなたの御手が堅く建てた聖所に。
18 主はとこしえまでも統べ治められる。」
19 ファラオの馬が戦車や騎兵とともに海の中に入ったとき、主は海の水を彼らの上に戻された。
しかし、イスラエルの子らは海の真ん中で乾いた地面を歩いて行った。
20 そのとき、アロンの姉、女預言者ミリアムがタンバリンを手に取ると、女たちもみなタンバリ
ンを持ち、踊りながら彼女について出て来た。
21 ミリアムは人々に応えて歌った。 「主に向かって歌え。 主はご威光を極みまで現され、 馬と
乗り手を海の中に投げ込まれた。」
22 モーセはイスラエルを葦の海から旅立たせた。彼らはシュルの荒野へ出て行き、三日間、荒野
を歩いた。しかし、彼らには水が見つからなかった。
23 彼らはマラに来たが、マラの水は苦くて飲めなかった。それで、そこはマラという名で呼ばれ
た。
24 民はモーセに向かって「われわれは何を飲んだらよいのか」と不平を言った。

25 モーセが主に叫ぶと、主は彼に一本の木を示された。彼がそれを水の中に投げ込むと、水は甘
くなった。主はそこで彼に掟と定めを授け、そこで彼を試み、
26 そして言われた。「もし、あなたの神、主の御声にあなたが確かに聞き従い、主の目にかなう
ことを行い、また、その命令に耳を傾け、その掟をことごとく守るなら、わたしがエジプトで
下したような病気は何一つあなたの上に下さない。わたしは主、あなたを癒やす者だからであ
る。」
27 こうして彼らはエリムに着いた。そこには、十二の水の泉と七十本のなつめ椰子の木があっ
た。そこで、彼らはその水のほとりで宿営した。

第16章

1 イスラエルの全会衆はエリムから旅立ち、エジプトの地を出て、第二の月の十五日に、エリム
とシナイとの間にあるシンの荒野に入った。
2 そのとき、イスラエルの全会衆は、この荒野でモーセとアロンに向かって不平を言った。
3 イスラエルの子らは彼らに言った。「エジプトの地で、肉鍋のそばに座り、パンを満ち足りる
まで食べていたときに、われわれは主の手にかかって死んでいたらよかったのだ。事実、あな
たがたは、われわれをこの荒野に導き出し、この集団全体を飢え死にさせようとしている。」
4 主はモーセに言われた。「見よ、わたしはあなたがたのために天からパンを降らせる。民は外
に出て行って、毎日、その日の分を集めなければならない。これは、彼らがわたしのおしえに
従って歩むかどうかを試みるためである。
5 六日目に彼らが持ち帰って調えるものは、日ごとに集める分の二倍である。」
6 それでモーセとアロンは、すべてのイスラエルの子らに言った。「あなたがたは、夕方には、
エジプトの地からあなたがたを導き出したのが主であったことを知り、
7 朝には主の栄光を見る。主に対するあなたがたの不平を主が聞かれたからだ。私たちが何だと
いうので、私たちに不平を言うのか。」
8 モーセはまた言った。「主は夕方にはあなたがたに食べる肉を与え、朝には満ち足りるほどパ
ンを与えてくださる。それはあなたがたが主に対してこぼした不平を、主が聞かれたからだ。
いったい私たちが何だというのか。あなたがたの不平は、この私たちに対してではなく、主に
対してなのだ。」
9 モーセはアロンに言った。「イスラエルの全会衆に言いなさい。『主の前に近づきなさい。主
があなたがたの不平を聞かれたから』と。」
10 アロンがイスラエルの全会衆に告げたとき、彼らが荒野の方を振り向くと、見よ、主の栄光が
雲の中に現れた。
11 主はモーセに告げられた。
12 「わたしはイスラエルの子らの不平を聞いた。彼らに告げよ。『あなたがたは夕暮れには肉を
食べ、朝にはパンで満ち足りる。こうしてあなたがたは、わたしがあなたがたの神、主である
ことを知る。』」
13 すると、その夕方、うずらが飛んで来て宿営をおおった。また、朝になると、宿営の周り一面
に露が降りた。
14 その一面の露が消えると、見よ、荒野の面には薄く細かいもの、地に降りた霜のような細かい
ものがあった。

15 イスラエルの子らはこれを見て、「これは何だろう」と言い合った。それが何なのかを知らなかったからであった。モーセは彼らに言った。「これは主があなたがたに食物として下さったパンだ。
16 主が命じられたことはこうだ。『自分の食べる分に応じて、一人当たり一オメルずつ、それを集めよ。自分の天幕にいる人数に応じて、それを取れ。』」
17 そこで、イスラエルの子らはそのとおりにした。ある者はたくさん、ある者は少しだけ集めた。
18 彼らが、何オメルあるかそれを量ってみると、たくさん集めた人にも余ることはなく、少しだけ集めた人にも足りないことはなかった。自分が食べる分に応じて集めたのである。
19 モーセは彼らに言った。「だれも、それを朝まで残しておいてはならない。」
20 しかし、彼らはモーセの言うことを聞かず、ある者は朝までその一部を残しておいた。すると、それに虫がわき、臭くなった。モーセは彼らに向かって怒った。
21 彼らは朝ごとに、各自が食べる分量を集め、日が高くなると、それは溶けた。
22 六日目に、彼らは二倍のパンを、一人当たり二オメルずつを集めた。会衆の上に立つ者たちがみなモーセのところに来て、告げると、
23 モーセは彼らに言った。「主の語られたことはこうだ。『明日は全き休みの日、主の聖なる安息である。焼きたいものは焼き、煮たいものは煮よ。残ったものはすべて取っておき、朝まで保存せよ。』」
24 モーセの命じたとおりに、彼らはそれを朝まで取っておいた。しかし、それは臭くもならず、そこにうじ虫もわかなかった。
25 モーセは言った。「今日は、それを食べなさい。今日は主の安息だから。今日は、それを野で見つけることはできない。
26 六日の間、それを集めなさい。しかし七日目の安息には、それはそこにはない。」
27 七日目になって、民の中のある者たちが集めに出て行った。しかし、何も見つからなかった。
28 主はモーセに言われた。「あなたがたは、いつまでわたしの命令とおしえを拒み、守らないのか。
29 心せよ。主があなたがたに安息を与えたのだ。そのため、六日目には二日分のパンをあなたがたに与えている。七日目には、それぞれ自分のところにとどまれ。だれも自分のところから出てはならない。」
30 それで民は七日目に休んだ。
31 イスラエルの家は、それをマナと名づけた。それはコエンドロの種のようで、白く、その味は蜜を入れた薄焼きパンのようであった。
32 モーセは言った。「主が命じられたことはこうだ。『それを一オメル分、あなたがたの子孫のために保存しなさい。わたしがあなたがたをエジプトの地から導き出したときに、荒野であなたがたに食べさせたパンを、彼らが見ることができるようにするためである。』」
33 モーセはアロンに言った。「壺を一つ持って来て、マナを一オメル分その中に入れ、それを主の前に置いて、あなたがたの子孫のために保存しなさい。」
34 主がモーセに命じられたとおり、アロンはそれを保存するために、さとしの板の前に置いた。
35 イスラエルの子らは、人が住んでいる土地に来るまで、四十年の間マナを食べた。彼らはカナンの地の境に来るまでマナを食べた。

36 一オメルは一エパの十分の一である。

第17章

1 イスラエルの全会衆は、主の命によりシンの荒野を旅立ち、旅を続けてレフィディムに宿営した。しかし、そこには民の飲み水がなかった。
2 民はモーセと争い、「われわれに飲む水を与えよ」と言った。モーセは彼らに「あなたがたはなぜ私と争うのか。なぜ主を試みるのか」と言った。
3 民はそこで水に渇いた。それで民はモーセに不平を言った。「いったい、なぜ私たちをエジプトから連れ上ったのか。私や子どもたちや家畜を、渇きで死なせるためか。」
4 そこで、モーセは主に叫んで言った。「私はこの民をどうすればよいのでしょう。今にも、彼らは私を石で打ち殺そうとしています。」
5 主はモーセに言われた。「民の前を通り、イスラエルの長老たちを何人か連れて、あなたがナイル川を打ったあの杖を手に取り、そして行け。
6 さあ、わたしはそこ、ホレブの岩の上で、あなたの前に立つ。あなたはその岩を打て。岩から水が出て、民はそれを飲む。」モーセはイスラエルの長老たちの目の前で、そのとおりに行った。
7 それで、彼はその場所をマサ、またメリバと名づけた。それは、イスラエルの子らが争ったからであり、また彼らが「主は私たちの中におられるのか、おられないのか」と言って、主を試みたからである。
8 さて、アマレクが来て、レフィディムでイスラエルと戦った。
9 モーセはヨシュアに言った。「男たちを選び、出て行ってアマレクと戦いなさい。私は明日、神の杖を手に持って、丘の頂に立ちます。」
10 ヨシュアはモーセが言ったとおりにして、アマレクと戦った。モーセとアロンとフルは丘の頂に登った。
11 モーセが手を高く上げているときは、イスラエルが優勢になり、手を下ろすとアマレクが優勢になった。
12 モーセの手が重くなると、彼らは石を取り、それをモーセの足もとに置いた。モーセはその上に腰掛け、アロンとフルは、一人はこちらから、一人はあちらから、モーセの手を支えた。それで彼の両手は日が沈むまで、しっかり上げられていた。
13 ヨシュアは、アマレクとその民を剣の刃で討ち破った。
14 主はモーセに言われた。「このことを記録として文書に書き記し、ヨシュアに読んで聞かせよ。わたしはアマレクの記憶を天の下から完全に消し去る。」
15 モーセは祭壇を築き、それをアドナイ・ニシと呼び、
16 そして言った。「主の御座の上にある手。 主は代々にわたりアマレクと戦われる。」

第18章

1 さて、モーセのしゅうと、ミディアンの祭司イテロは、神がモーセと御民イスラエルのためになさったすべてのこと、どのようにして主がイスラエルをエジプトから導き出されたかを聞いた。

2 それでモーセのしゅうとイテロは、先に送り返されていたモーセの妻ツィポラと
3 彼女の二人の息子を連れて行った。その一人の名はゲルショムで、「私は異国にいる寄留者
だ」という意味である。
4 もう一人の名はエリエゼルで、「私の父の神は私の助けであり、ファラオの剣から私を救い出
された」という意味である。
5 こうしてモーセのしゅうとイテロは、モーセの息子と妻と一緒に、荒野にいるモーセのところ
にやって来た。彼はそこの神の山に宿営していた。
6 イテロはモーセに伝えた。「あなたのしゅうとである私イテロが、あなたの妻とその二人の息
子と一緒に、あなたのところに来ています。」
7 モーセはしゅうとを迎えに出て行き、身をかがめ、彼に口づけした。彼らは互いに安否を問
い、天幕に入った。
8 モーセはしゅうとに、主がイスラエルのために、ファラオとエジプトになさったすべてのこ
と、道中で自分たちに降りかかったすべての困難、そして主が彼らを救い出された次第を語っ
た。
9 イテロは、主がイスラエルのためにしてくださったすべての良いこと、とりわけ、エジプト人
の手から救い出してくださったことを喜んだ。
10 イテロは言った。「主がほめたたえられますように。主はあなたがたをエジプト人の手とファ
ラオの手から救い出し、この民をエジプトの支配から救い出されました。
11 今、私は、主があらゆる神々にまさって偉大であることを知りました。彼らがこの民に対して
不遜にふるまったことの結末によって。」
12 モーセのしゅうとイテロは、神への全焼のささげ物といけにえを携えて来たので、アロンとイ
スラエルのすべての長老たちは、モーセのしゅうとともに神の前で食事をしようとやって来
た。
13 翌日、モーセは民をさばくために座に着いた。民は朝から夕方までモーセの周りに立ってい
た。
14 モーセのしゅうとは、モーセが民のためにしているすべてのことを見て、こう言った。「あな
たが民にしているこのことは、いったい何ですか。なぜ、あなた一人だけがさばきの座に着
き、民はみな朝から夕方まであなたの周りに立っているのですか。」
15 モーセはしゅうとに答えた。「民は神のみこころを求めて、私のところに来るのです。
16 彼らは、何か事があると、私のところに来ます。私は双方の間をさばいて、神の掟とおしえを
知らせるのです。」
17 すると、モーセのしゅうとは言った。「あなたがしていることは良くありません。
18 あなたも、あなたとともにいるこの民も、きっと疲れ果ててしまいます。このことは、あなた
にとって荷が重すぎるからです。あなたはそれを一人ではできません。
19 さあ、私の言うことを聞きなさい。あなたに助言しましょう。どうか神があなたとともにいて
くださるように。あなたは神の前で民の代わりとなり、様々な事件をあなたが神のところに持
って行くようにしなさい。
20 あなたは掟とおしえをもって彼らに警告し、彼らの歩むべき道と、なすべきわざを知らせなさ
い。

21 あなたはまた、民全体の中から、神を恐れる、力のある人たち、不正の利を憎む誠実な人たち
を見つけ、千人の長、百人の長、五十人の長、十人の長として民の上に立てなさい。
22 いつもは彼らが民をさばくのです。大きな事件のときは、すべてあなたのところに持って来さ
せ、小さな事件はみな、彼らにさばかせて、あなたの重荷を軽くしなさい。こうして彼らはあ
なたとともに重荷を負うのです。
23 もし、あなたがこのことを行い、神があなたにそのように命じるなら、あなたも立ち続けるこ
とができ、この民もみな、平安のうちに自分のところに帰ることができるでしょう。」
24 モーセはしゅうとの言うことを聞き入れ、すべて彼が言ったとおりにした。
25 モーセはイスラエル全体の中から力のある人たちを選び、千人の長、百人の長、五十人の長、
十人の長として、民の上にかしらとして任じた。
26 いつもは彼らが民をさばき、難しい事件はモーセのところに持って来たが、小さな事件はみな
彼ら自身でさばいた。
27 それからモーセはしゅうとを送り出した。しゅうとは自分の国へ帰って行った。

第19章

1 エジプトの地を出たイスラエルの子らは、第三の新月の日にシナイの荒野に入った。
2 彼らはレフィディムを旅立って、シナイの荒野に入り、その荒野で宿営した。イスラエルはそ
こで、山を前に宿営した。
3 モーセが神のみもとに上って行くと、主が山から彼を呼んで言われた。「あなたは、こうヤコ
ブの家に言い、イスラエルの子らに告げよ。
4 『あなたがたは、わたしがエジプトにしたこと、また、あなたがたを鷲の翼に乗せて、わたし
のもとに連れて来たことを見た。
5 今、もしあなたがたが確かにわたしの声に聞き従い、わたしの契約を守るなら、あなたがたは
あらゆる民族の中にあって、わたしの宝となる。全世界はわたしのものであるから。
6 あなたがたは、わたしにとって祭司の王国、聖なる国民となる。』これが、イスラエルの子ら
にあなたが語るべきことばである。」
7 モーセは行って、民の長老たちを呼び寄せ、主が命じられたこれらのことばをすべて、彼らの
前に示した。
8 民はみな口をそろえて答えた。「私たちは主の言われたことをすべて行います。」それでモー
セは民のことばを携えて主のもとに帰った。
9 主はモーセに言われた。「見よ。わたしは濃い雲の中にあって、あなたに臨む。わたしがあな
たに語るとき、民が聞いて、あなたをいつまでも信じるためである。」それからモーセは民の
ことばを主に告げた。
10 主はモーセに言われた。「あなたは民のところに行き、今日と明日、彼らを聖別し、自分たち
の衣服を洗わせよ。
11 彼らに三日目のために準備させよ。三日目に、主が民全体の目の前でシナイ山に降りて行くか
らである。
12 あなたは民のために周囲に境を設けて言え。『山に登り、その境界に触れないように注意せ
よ。山に触れる者は、だれでも必ず殺されなければならない。

13 その人に手を触れてはならない。その人は必ず石で打ち殺されるか、矢で殺されなければならない。獣でも人でも、生かしておいてはならない。』雄羊の角が長く鳴り響くときは、彼らは山に登ることができる。」
14 モーセは山から民のところに下りて行って、民を聖別した。彼らは自分たちの衣服を洗った。
15 モーセは民に言った。「三日目のために準備をしなさい。女に近づいてはならない。」
16 三日目の朝、雷鳴と稲妻と厚い雲が山の上にあって、角笛の音が非常に高く鳴り響いたので、宿営の中の民はみな震え上がった。
17 モーセは、神に会わせようと、民を宿営から連れ出した。彼らは山のふもとに立った。
18 シナイ山は全山が煙っていた。主が火の中にあって、山の上に降りて来られたからである。煙は、かまどの煙のように立ち上り、山全体が激しく震えた。
19 角笛の音がいよいよ高くなる中、モーセは語り、神は声を出して彼に答えられた。
20 主はシナイ山の頂に降りて来られた。主がモーセを山の頂に呼ばれたので、モーセは登って行った。
21 主はモーセに言われた。「下って行って、民に警告せよ。彼らが見ようとして主の方に押し破って来て、多くの者が滅びることのないように。
22 主に近づく祭司たちも自分自身を聖別しなければならない。主が彼らに怒りを発することのないように。」
23 モーセは主に言った。「民はシナイ山に登ることができません。あなたご自身が私たちに警告して、『山の周りに境を設け、それを聖なるものとせよ』と言われたからです。」
24 主は彼に言われた。「下りて行け。そして、あなた自身はアロンと一緒に上れ。しかし、祭司たちと民は、主のところに上ろうとして押し破ってはならない。主が彼らに怒りを発することのないように。」
25 そこでモーセは民のところに下りて行き、彼らに告げた。

第20章

1 それから神は次のすべてのことばを告げられた。
2 「わたしは、あなたをエジプトの地、奴隷の家から導き出したあなたの神、主である。
3 あなたには、わたし以外に、ほかの神があってはならない。
4 あなたは自分のために偶像を造ってはならない。上の天にあるものでも、下の地にあるものでも、地の下の水の中にあるものでも、いかなる形をも造ってはならない。
5 それらを拝んではならない。それらに仕えてはならない。あなたの神、主であるわたしは、ねたみの神。わたしを憎む者には父の咎を子に報い、三代、四代にまで及ぼし、
6 わたしを愛し、わたしの命令を守る者には、恵みを千代にまで施すからである。
7 あなたは、あなたの神、主の名をみだりに口にしてはならない。主は、主の名をみだりに口にする者を罰せずにはおかない。
8 安息日を覚えて、これを聖なるものとせよ。
9 六日間働いて、あなたのすべての仕事をせよ。
10 七日目は、あなたの神、主の安息である。あなたはいかなる仕事もしてはならない。あなたも、あなたの息子や娘も、それにあなたの男奴隷や女奴隷、家畜、またあなたの町囲みの中に

いる寄留者も。
11 それは主が六日間で、天と地と海、またそれらの中のすべてのものを造り、七日目に休んだからである。それゆえ、主は安息日を祝福し、これを聖なるものとした。
12 あなたの父と母を敬え。あなたの神、主が与えようとしているその土地で、あなたの日々が長く続くようにするためである。
13 殺してはならない。
14 姦淫してはならない。
15 盗んではならない。
16 あなたの隣人について、偽りの証言をしてはならない。
17 あなたの隣人の家を欲してはならない。あなたの隣人の妻、男奴隷、女奴隷、牛、ろば、すべてあなたの隣人のものを欲してはならない。」
18 民はみな、雷鳴、稲妻、角笛の音、煙る山を目の前にしていた。民は見て身震いし、遠く離れて立っていた。
19 彼らはモーセに言った。「あなたが私たちに語ってください。私たちは聞き従います。しかし、神が私たちにお語りになりませんように。さもないと、私たちは死んでしまいます。」
20 それでモーセは民に言った。「恐れることはありません。神が来られたのは、あなたがたを試みるためです。これは、あなたがたが罪に陥らないよう、神への恐れがあなたがたに生じるためです。」
21 民は遠く離れて立ち、モーセは神がおられる黒雲に近づいて行った。
22 主はモーセに言われた。「あなたはイスラエルの子らにこう言わなければならない。あなたがた自身、わたしが天からあなたがたに語ったのを見た。
23 あなたがたは、わたしと並べて銀の神々を造ってはならない。また自分のために、金の神々も造ってはならない。
24 あなたは、わたしのために土の祭壇を造りなさい。その上に、あなたの全焼のささげ物と交わりのいけにえとして、羊と牛を献げなさい。わたしが自分の名を覚えられるようにするすべての場所で、わたしはあなたに臨み、あなたを祝福する。
25 もしあなたが、わたしのために石で祭壇を造るなら、切り石で築いてはならない。それに、のみを当てることで、それを冒すことになるからである。
26 あなたはわたしの祭壇に階段で上るようにしてはならない。その上で、あなたの裸があらわにならないようにするためである。

第21章

1 これらはあなたが彼らの前に置くべき定めである。
2 あなたがヘブル人の男奴隷を買う場合、その人は六年間仕えなければならない。しかし七年目には自由の身として無償で去ることができる。
3 彼が独身で来たのなら独身で去る。彼に妻があれば、その妻は彼とともに去る。
4 彼の主人が彼に妻を与えて、その妻が彼に息子あるいは娘を産んでいたなら、この妻とその子どもたちは主人のものとなり、彼は一人で去らなければならない。

5 しかし、もしもその奴隷が『私は、ご主人様と、私の妻と子どもたちとを愛しています。自由の身となって去りたくありません』と明言するようなことがあるなら、
6 その主人は彼を神のもとに連れて行く。それから戸または門柱のところに連れて行き、きりで彼の耳を刺し通す。彼はいつまでも主人に仕えることができる。
7 人が娘を女奴隷として売るような場合、その女奴隷は、男奴隷が去る場合のように去ってはならない。
8 彼女を自分のものと定めた主人が、彼女を気に入らなくなった場合は、その主人は彼女が贖い出されるようにしなければならない。主人が彼女を裏切ったのだから、異国の民に売る権利はない。
9 その主人が彼女を自分の息子のものと定めるなら、彼女を自分の娘のように扱わなければならない。
10 その主人が別の女を妻とするなら、先の女への食べ物、衣服、夫婦の務めを減らしてはならない。
11 もしこれら三つのことを彼女に行わないなら、彼女は金を払わないで無償で出て行くことができる。
12 人を打って死なせた者は、必ず殺されなければならない。
13 ただし、彼に殺意がなく神が御手によって事を起こされた場合、わたしはあなたに、彼が逃れることができる場所を指定する。
14 しかし、人が隣人に対して不遜にふるまい、策略をめぐらして殺した場合には、この者を、わたしの祭壇のところからであっても、連れ出して殺さなければならない。
15 自分の父または母を打つ者は、必ず殺されなければならない。
16 人を誘拐した者は、その人を売った場合も、自分の手もとに置いている場合も、必ず殺されなければならない。
17 自分の父や母をののしる者は、必ず殺されなければならない。
18 人が争い、一人が石か拳で相手を打ち、その相手が死なないで床についた場合、
19 もし彼が再び起き上がり、杖によって外を歩けるようになれば、打った者は罰を免れる。ただ彼が休んだ分を弁償し、彼が完全に治るようにしてやらなければならない。
20 自分の男奴隷あるいは女奴隷を杖で打ち、その場で死なせた場合、その人は必ず復讐されなければならない。
21 ただし、もしその奴隷が一日か二日生き延びたなら、その人は復讐されてはならない。奴隷は彼の財産だからである。
22 人が人と争っていて、身ごもった女に突き当たり、早産させた場合、重大な傷害がなければ、彼はその女の夫が要求するとおりの罰金を必ず科せられなければならない。彼は法廷が定めるところに基づいて支払う。
23 しかし、重大な傷害があれば、いのちにはいのちを、
24 目には目を、歯には歯を、手には手を、足には足を、
25 火傷には火傷を、傷には傷を、打ち傷には打ち傷をもって償わなければならない。
26 人が自分の男奴隷の片目あるいは女奴隷の片目を打ち、目をつぶした場合、その目の償いとして、その奴隷を自由の身にしなければならない。

27 また、自分の男奴隷の歯一本あるいは女奴隷の歯一本を打ち、折ったなら、その歯の償いとして、その奴隷を自由の身にしなければならない。
28 牛が男または女を突いて死なせた場合、その牛は必ず石で打ち殺さなければならない。その肉を食べてはならない。しかし、その牛の持ち主は罰を免れる。
29 しかし、もし牛に以前から突く癖があり、その持ち主が注意されていたのにそれを監視せず、その牛が男または女を殺したのなら、その牛は石で打ち殺され、その持ち主も殺されなければならない。
30 もし彼に償い金が科せられたなら、彼は自分に科せられたとおりに、自分のいのちの贖いの代価を支払わなければならない。
31 息子を突いても娘を突いても、この規定のとおりに扱われる。
32 もしその牛が男奴隷あるいは女奴隷を突いたなら、牛の持ち主はその奴隷の主人に銀貨三十シェケルを支払い、その牛は石で打ち殺されなければならない。
33 人が水溜めのふたを開けたままにしておくか、あるいは、水溜めを掘って、それにふたをせずにおいて、牛やろばがそこに落ちた場合、
34 その水溜めの持ち主は償いをしなければならない。彼は家畜の持ち主に金を支払わなければならない。しかし、その死んだ家畜は彼のものとなる。
35 ある人の牛が隣人の牛を突いて、その牛が死んだ場合、両者は生きている牛を売って、その金を分け、また死んだ牛も分けなければならない。
36 しかし、もしその牛に以前から突く癖があることが分かっていて、その持ち主が監視しなかったのなら、その人は必ず牛を牛で償わなければならない。しかし、その死んだ牛は彼のものとなる。

第22章

1 人が牛あるいは羊を盗み、これを屠るか売るかした場合、牛一頭を牛五頭で、羊一匹を羊四匹で償わなければならない。
2 もし盗人が抜け穴を掘って押し入るところを見つけられ、打たれて死んだなら、打った者に血の責任はない。
3 もし日が昇っていれば、血の責任は打った者にある。盗みをした者は必ず償いをしなければならない。もし盗人が何も持っていなければ、盗みの代償としてその人自身が売られなければならない。
4 もしも、牛であれ、ろばであれ、羊であれ、盗んだ物が生きたままで彼の手もとにあるのが確認されたなら、それを二倍にして償わなければならない。
5 人が畑あるいはぶどう畑で家畜に牧草を食べさせるとき、放った家畜が他人の畑を食い荒らした場合、その人は自分の畑の最良の物と、ぶどう畑の最良の物をもって償いをしなければならない。
6 また、火が出て茨に燃え移り、積み上げた穀物の束、刈られていない麦穂、あるいは畑を焼き尽くした場合、その火を出した者は必ず償いをしなければならない。
7 人が金銭あるいは物品を隣人に預けて保管してもらい、それがその人の家から盗まれた場合、もしその盗人が見つかったなら、盗人はそれを二倍にして償わなければならない。

8 もし盗人が見つからないなら、その家の主人は神の前に出て、彼が隣人の所有物に決して手を
触れなかったと誓わなければならない。
9 所有をめぐるすべての違反行為に関しては、それが、牛、ろば、羊、上着、またいかなる紛失
物についてであれ、一方が『これは自分のものだ』と言うなら、その双方の言い分を神の前に
持ち出さなければならない。そして、神が有罪と宣告した者は、それを二倍にして相手に償わ
なければならない。
10 人が、ろば、牛、羊、またいかなる家畜でも、隣人に預けてその番をしてもらい、それが死ぬ
か、負傷するか、連れ去られるかしたが、目撃者がいない場合、
11 隣人の所有物に決して手を触れなかったという主への誓いが、双方の間になければならない。
その持ち主はこれを受け入れなければならない。隣人は償いをする必要はない。
12 しかし、もしも、それが確かにその人のところから盗まれたのであれば、その持ち主に償いを
しなければならない。
13 もしも、それが確かに野獣にかみ裂かれたのであれば、証拠としてそれを差し出さなければな
らない。かみ裂かれたものの償いをする必要はない。
14 人が隣人から家畜を借り、それが負傷するか死ぬかして、その持ち主が一緒にいなかった場合
は、必ず償いをしなければならない。
15 もし持ち主が一緒にいたなら、償いをする必要はない。しかし、それが賃借りした家畜であれ
ば、その借り賃は払わなければならない。
16 人が、まだ婚約していない処女を誘惑し、彼女と寝た場合、その人は必ず、彼女の花嫁料を払
って彼女を自分の妻としなければならない。
17 もしその父が彼女をその人に与えることを固く拒むなら、その人は処女の花嫁料に相当する銀
を支払わなければならない。
18 呪術を行う女は生かしておいてはならない。
19 動物と寝る者はみな、必ず殺されなければならない。
20 ただ主ひとりのほかに、神々にいけにえを献げる者は、聖絶されなければならない。
21 寄留者を苦しめてはならない。虐げてはならない。あなたがたもエジプトの地で寄留の民だっ
たからである。
22 やもめ、みなしごはみな、苦しめてはならない。
23 もしも、あなたがその人たちを苦しめ、彼らがわたしに向かって切に叫ぶことがあれば、わた
しは必ず彼らの叫びを聞き入れる。
24 そして、わたしの怒りは燃え上がり、わたしは剣によってあなたがたを殺す。あなたがたの妻
はやもめとなり、あなたがたの子どもはみなしごとなる。
25 もし、あなたとともにいる、わたしの民の貧しい人に金を貸すなら、彼に対して金貸しのよう
であってはならない。利息を取ってはならない。
26 もしも、隣人の上着を質に取ることがあれば、日没までにそれを返さなければならない。
27 それは彼のただ一つの覆い、彼の肌をおおう衣だからである。彼はほかに何を着て寝ることが
できるだろうか。彼がわたしに向かって叫ぶとき、わたしはそれを聞き入れる。わたしは情け
深いからである。
28 神をののしってはならない。また、あなたの民の族長をのろってはならない。

29 あなたの豊かな産物と、あふれる酒とのささげ物を遅らせてはならない。 あなたの息子のうち長子は、わたしに献げなければならない。
30 あなたの牛と羊についても同様にしなければならない。七日間、その母親のそばに置き、八日目にはわたしに献げなければならない。
31 あなたがたは、わたしにとって聖なる者でなければならない。野で獣にかみ裂かれたものの肉を食べてはならない。それは犬に投げ与えなければならない。

第23章

1 偽りのうわさを口にしてはならない。悪者と組んで、悪意のある証人となってはならない。
2 多数に従って悪の側に立ってはならない。訴訟において、多数に従って道からそれ、ねじ曲げた証言をしてはならない。
3 また、訴訟において、弱い者を特に重んじてもいけない。
4 あなたの敵の牛やろばが迷っているのに出会った場合、あなたは必ずそれを彼のところに連れ戻さなければならない。
5 あなたを憎んでいる者のろばが、重い荷の下敷きになっているのを見た場合、それを見過ごしにせず、必ず彼と一緒に起こしてやらなければならない。
6 訴訟において、あなたの貧しい者たちへのさばきを曲げてはならない。
7 偽りの告訴から遠く離れなければならない。咎のない者、正しい者を殺してはならない。わたしが悪者を正しいとすることはない。
8 賄賂を受け取ってはならない。賄賂は聡明な人を盲目にし、正しい人の言い分をゆがめる。
9 あなたは寄留者を虐げてはならない。あなたがたはエジプトの地で寄留の民であったので、寄留者の心をあなたがた自身がよく知っている。
10 六年間は、あなたは地に種を蒔き、収穫をする。
11 しかし、七年目には、その土地をそのまま休ませておかなければならない。民の貧しい人々が食べ、その残りを野の生き物が食べるようにしなければならない。ぶどう畑、オリーブ畑も同様にしなければならない。
12 六日間は自分の仕事をし、七日目には、それをやめなければならない。あなたの牛やろばが休み、あなたの女奴隷の子や寄留者が息をつくためである。
13 わたしがあなたがたに言ったすべてのことを守らなければならない。ほかの神々の名を口にしてはならない。これがあなたの口から聞こえてはならない。
14 年に三度、わたしのために祭りを行わなければならない。
15 種なしパンの祭りを守らなければならない。わたしが命じたとおり、アビブの月の定められた時に、七日間、種なしパンを食べなければならない。それは、その月にあなたがエジプトを出たからである。何も持たずにわたしの前に出てはならない。
16 また、あなたが畑に種を蒔いて得た勤労の初穂を献げる刈り入れの祭りと、年の終わりに、あなたの勤労の実を畑から取り入れるときの収穫祭を行わなければならない。
17 年に三度、男子はみな、あなたの主、主の前に出なければならない。
18 わたしへのいけにえの血を、種入りのパンと一緒に献げてはならない。また、わたしの祭りのための脂肪を朝まで残しておいてはならない。

19 あなたの土地の初穂の最上のものを、あなたの神、主の家に持って来なければならない。 あなたは子やぎをその母の乳で煮てはならない。

20 見よ。わたしは、使いをあなたの前に遣わし、道中あなたを守り、わたしが備えた場所にあなたを導く。

21 あなたは、その者に心を留め、その声に聞き従いなさい。彼に逆らってはならない。わたしの名がその者のうちにあるので、彼はあなたがたの背きを赦さない。

22 しかし、もしあなたが確かにその声に聞き従い、わたしが告げることをみな行うなら、わたしはあなたの敵には敵となり、あなたの仇には仇となる。

23 わたしの使いがあなたの前を行き、あなたをアモリ人、ヒッタイト人、ペリジ人、カナン人、ヒビ人、エブス人のところに導き、わたしが彼らを消し去るとき、

24 あなたは彼らの神々を拝んではならない。それらに仕えてはならない。また、彼らの風習に倣ってはならない。それらの神々を徹底的に破壊し、その石の柱を粉々に打ち砕かなければならない。

25 あなたがたの神、主に仕えよ。そうすれば、主はあなたのパンと水を祝福する。わたしはあなたの中から病気を取り除く。

26 あなたの国には、流産する女も不妊の女もいなくなる。わたしはあなたの日数を満たす。

27 わたしは、わたしへの恐れをあなたの先に送り、あなたが入って行く先のすべての民をかき乱し、あなたのすべての敵があなたに背を向けるようにする。

28 わたしはまた、スズメバチをあなたの先に遣わす。これが、ヒビ人、カナン人、ヒッタイト人をあなたの前から追い払う。

29 しかし、わたしは彼らを一年のうちに、あなたの前から追い払いはしない。土地が荒れ果て、野の生き物が増え、あなたを害することのないようにするためである。

30 あなたが増え広がって、その地を相続するまで、少しずつ、わたしは彼らをあなたの前から追い払う。

31 わたしは、あなたの領土を、葦の海からペリシテ人の海に至るまで、また荒野からあの大河に至るまでとする。それは、わたしがその地に住んでいる者たちをあなたがたの手に渡し、あなたが彼らを自分の前から追い払うからである。

32 あなたは、彼らや、彼らの神々と契約を結んではならない。

33 彼らはあなたの国に住んではならない。彼らがあなたを、わたしの前に罪ある者としないようにするためである。あなたが彼らの神々に仕え、あなたにとって罠となるからである。」

第24章

1 主はモーセに言われた。「あなたとアロン、ナダブとアビフ、それにイスラエルの長老七十人は、主のもとへ上って来て、遠く離れて伏し拝め。

2 モーセだけが主のもとに近づけ。ほかの者は近づいてはならない。民はモーセと一緒に上って来てはならない。」

3 モーセは来て、主のすべてのことばと、すべての定めをことごとく民に告げた。すると、民はみな声を一つにして答えた。「主の言われたことはすべて行います。」

4 モーセは主のすべてのことばを書き記した。モーセは翌朝早く、山のふもとに祭壇を築き、また、イスラエルの十二部族にしたがって十二の石の柱を立てた。

5 それから彼はイスラエルの若者たちを遣わしたので、彼らは全焼のささげ物を献げ、また、交わりのいけにえとして雄牛を主に献げた。
6 モーセはその血の半分を取って鉢に入れ、残りの半分を祭壇に振りかけた。
7 そして契約の書を取り、民に読んで聞かせた。彼らは言った。「主の言われたことはすべて行います。聞き従います。」
8 モーセはその血を取って、民に振りかけ、そして言った。「見よ。これは、これらすべてのことばに基づいて、主があなたがたと結ばれる契約の血である。」
9 それからモーセとアロン、ナダブとアビフ、それにイスラエルの長老七十人は登って行った。
10 彼らはイスラエルの神を見た。御足の下にはサファイアの敷石のようなものがあり、透き通っていて大空そのもののようであった。
11 神はイスラエルの子らのおもだった者たちに、手を下されなかった。彼らは神ご自身を見て、食べたり飲んだりした。
12 主はモーセに言われた。「山のわたしのところに上り、そこにとどまれ。わたしはあなたに石の板を授ける。それは、彼らを教えるために、わたしが書き記したおしえと命令である。」
13 そこで、モーセとその従者ヨシュアは立ち上がり、モーセは神の山に登った。
14 彼は長老たちに言った。「私たちがあなたがたのところに戻って来るまで、私たちのために、ここにとどまりなさい。見よ、アロンとフルがあなたがたと一緒にいる。訴え事のある者はだれでも彼らのところに行きなさい。」
15 モーセが山に登ると、雲が山をおおった。
16 主の栄光はシナイ山の上にとどまり、雲は六日間、山をおおっていた。七日目に主は雲の中からモーセを呼ばれた。
17 主の栄光の現れは、イスラエルの子らの目には、山の頂を焼き尽くす火のようであった。
18 モーセは雲の中に入って行き、山に登った。そして、モーセは四十日四十夜、山にいた。

第25章

1 主はモーセに告げられた。
2 「わたしに奉納物を携えて来るように、イスラエルの子らに告げよ。あなたがたは、すべて、進んで献げる心のある人から、わたしへの奉納物を受け取らなければならない。
3 彼らから受け取る奉納物は次のものである。金、銀、青銅、
4 青、紫、緋色の撚り糸、亜麻布、やぎの毛、
5 赤くなめした雄羊の皮、じゅごんの皮、アカシヤ材、
6 ともしび用の油、注ぎの油と、香り高い香のための香料、
7 エポデや胸当てにはめ込む、縞めのうや宝石である。
8 彼らにわたしのための聖所を造らせよ。そうすれば、わたしは彼らのただ中に住む。
9 幕屋と幕屋のすべての備品は、わたしがあなたに示す型と全く同じように造らなければならない。
10 アカシヤ材の箱を作り、その長さを二キュビト半、幅を一キュビト半、高さを一キュビト半とする。
11 それに純金をかぶせる。その内側と外側にかぶせ、その周りに金の飾り縁を作る。

12 箱のために金の環を四つ鋳造し、その四隅の基部に取り付ける。一方の側に二つの環を、もう一方の側にもう二つの環を取り付ける。
13 また、アカシヤ材で棒を作り、それに金をかぶせる。
14 その箱を棒で担ぐために、その棒を箱の両側の環に通す。
15 その棒は箱の環に差し込んだままにする。外してはならない。
16 その箱に、わたしが与えるさとしの板を納める。
17 また、純金で『宥めの蓋』を作り、その長さを二キュビト半、幅を一キュビト半とする。
18 二つの金のケルビムを作る。槌で打って、『宥めの蓋』の両端に作る。
19 一つを一方の端に、もう一つを他方の端に作る。『宥めの蓋』の一部として、ケルビムをその両端に作る。
20 ケルビムは両翼を上の方に広げ、その翼で『宥めの蓋』をおおうようにする。互いに向かい合って、ケルビムの顔が『宥めの蓋』の方を向くようにする。
21 その『宥めの蓋』を箱の上に載せる。箱の中には、わたしが与えるさとしの板を納める。
22 わたしはそこであなたと会見し、イスラエルの子らに向けてあなたに与える命令を、その『宥めの蓋』の上から、あかしの箱の上の二つのケルビムの間から、ことごとくあなたに語る。
23 また、アカシヤ材で机を作り、その長さを二キュビト、幅を一キュビト、高さを一キュビト半とする。
24 これに純金をかぶせ、その周りに金の飾り縁を作り、
25 その周りに一手幅の枠を作り、その枠の周りに金の飾り縁を作る。
26 その机のために金の環を四つ作り、四本の脚のところの四隅にその環を取り付ける。
27 環は枠の脇に付け、そこに机を担ぐ棒を入れる。
28 アカシヤ材で机を担ぐための棒を作り、これに金をかぶせる。
29 また、注ぎのささげ物を注ぐための皿、ひしゃく、瓶、水差しを作る。これらを純金で作る。
30 机の上には臨在のパンを置き、絶えずわたしの前にあるようにする。
31 また、純金の燭台を作る。その燭台は槌で打って作る。それには、台座と支柱と、がくと節と花弁があるようにする。
32 六本の枝がその脇の部分から、すなわち燭台の三本の枝が一方の脇から、燭台のもう三本の枝がもう一方の脇から出る。
33 一方の枝に、アーモンドの花の形をした、節と花弁のある三つのがくを、また、もう一方の枝にも、アーモンドの花の形をした、節と花弁のある三つのがくを付ける。燭台から出る六本の枝はみな、そのようにする。
34 燭台そのものには、アーモンドの花の形をした、節と花弁のある四つのがくを付ける。
35 それから出る一対の枝の下に一つの節、それから出る次の一対の枝の下に一つの節、それから出るその次の一対の枝の下に一つの節。このように六つの枝が燭台から出ていることになる。
36 それらの節と枝とは燭台と一体にし、その全体は一つの純金を打って作る。
37 また、ともしび皿を七つ作る。ともしび皿は、その前方を照らすように上にあげる。
38 その芯切りばさみも芯取り皿も純金である。
39 純金一タラントで、燭台とこれらのすべての器具を作る。
40 よく注意して、山であなたに示された型どおりに作らなければならない。

第26章

1 幕屋を十枚の幕で造らなければならない。幕は、撚り糸で織った亜麻布、青、紫、緋色の撚り糸を用い、意匠を凝らして、それにケルビムを織り出さなければならない。

2 幕の長さはそれぞれ二十八キュビト、幕の幅はそれぞれ四キュビトで、幕はみな同じ寸法とする。

3 五枚の幕を互いにつなぎ合わせ、もう五枚の幕も互いにつなぎ合わせる。

4 そのつなぎ合わせたものの端にある幕の縁に、青いひもの輪を付ける。もう一つのつなぎ合わせたものの端にある幕の縁にも、そのようにする。

5 その一枚の幕に五十個の輪を付け、もう一つのつなぎ合わせた幕の端にも五十個の輪を付け、その輪を互いに向かい合わせにする。

6 金の留め金を五十個作り、その留め金で幕を互いにつなぎ合わせ、こうして一つの幕屋にする。

7 また、あなたは、幕屋の上に掛ける天幕のために、やぎの毛の幕を作らなければならない。その幕を十一枚作る。

8 幕の長さはそれぞれ三十キュビト、幕の幅はそれぞれ四キュビト、その十一枚の幕は同じ寸法とする。

9 そのうち五枚の幕を一つに、もう六枚の幕も一つにつなぎ合わせ、その六枚目の幕を天幕の前で折り重ねる。

10 つなぎ合わせたものの端にある幕の縁には五十個の輪を付け、もう一つのつなぎ合わせた幕の縁にも五十個の輪を付ける。

11 青銅の留め金を五十個作って、その留め金を輪にはめ、天幕をつなぎ合わせて一つとする。

12 天幕の幕の余って垂れる部分、すなわちその余りの半幕は幕屋のうしろに垂らす。

13 そして、このうち一キュビトともう一方の一キュビトの、天幕の幕の長さで余る部分は、幕屋をおおうように、その天幕の両側、手前と奥側に垂らしておく。

14 天幕のために、赤くなめした雄羊の皮で覆いを作り、その上に掛ける覆いをじゅごんの皮で作る。

15 この幕屋のために、アカシヤ材で、まっすぐに立てる板を作る。

16 一枚の板は、長さ十キュビト、板一枚の幅は一キュビト半。

17 板一枚ごとに、はめ込みのほぞを二つ作り、幕屋のすべての板にそのようにする。

18 幕屋のために板を作る。南側に二十枚。

19 その二十枚の板の下に銀の台座を四十個作る。一枚の板の下に、その二つのほぞのために二個の台座があり、ほかの板の下にも、二つのほぞのために二個の台座を作る。

20 幕屋のもう一つの側、北側に板二十枚。

21 銀の台座四十個。すなわち、一枚の板の下に二個の台座。次の板の下にも二個の台座。

22 幕屋のうしろ、西側に板六枚を作る。

23 幕屋のうしろの両隅のために板二枚を作る。

24 これらは底部では別々であるが、上部では、一つの環のところで一つに合わさるようにする。二枚とも、そのようにする。これらが両隅となる。

25 板は八枚、その銀の台座は十六個。すなわち、一枚の板の下に二個の台座、ほかの板の下にも二個ずつの台座となる。
26 また、アカシヤ材で横木を作る。すなわち、幕屋の一方の側の板のために五本、
27 幕屋のもう一方の側の板のために横木五本、幕屋のうしろ、西側の板のために横木を五本作る。
28 板の中間にある中央横木は、端から端まで通るようにする。
29 その板に金をかぶせ、横木を通す環を金で作る。横木にも金をかぶせる。
30 こうして、あなたは、山で示された定めのとおりに幕屋を設営しなければならない。
31 また、青、紫、緋色の撚り糸、それに撚り糸で織った亜麻布を用いて、垂れ幕を作る。これに意匠を凝らしてケルビムを織り出す。
32 この垂れ幕を、金をかぶせたアカシヤ材の四本の柱に付ける。その鉤は金で、柱は四つの銀の台座の上に据えられる。
33 その垂れ幕を留め金の下に掛け、垂れ幕の内側に、あかしの箱を運び入れる。その垂れ幕は、あなたがたのために聖所と至聖所との仕切りとなる。
34 至聖所にあるあかしの箱の上には『宥めの蓋』を置く。
35 垂れ幕の外側には机を置く。机は幕屋の南側にある燭台と向かい合わせる。その机は北側に置く。
36 あなたは天幕の入り口のために、青、紫、緋色の撚り糸、それに撚り糸で織った亜麻布を用い、刺繍を施して垂れ幕を作らなければならない。
37 その幕のためにアカシヤ材の柱を五本作り、これに金をかぶせる。その鉤も金である。それらの柱のために青銅の台座を五つ鋳造する。

第27章

1 祭壇をアカシヤ材で作る。その祭壇は長さ五キュビト、幅五キュビトの正方形とし、高さは三キュビトとする。
2 その四隅の上に角を作る。その角は祭壇から出ているようにし、青銅をその祭壇にかぶせる。
3 灰壺、十能、鉢、肉刺し、火皿を作る。祭壇の用具はみな青銅で作る。
4 祭壇のために青銅の網細工の格子を作る。その網の上の四隅に青銅の環を四個作る。
5 その網を下の方、祭壇の張り出した部分の下に取り付け、これが祭壇の高さの半ばに達するようにする。
6 祭壇のために棒を、アカシヤ材の棒を作り、それらに青銅をかぶせる。
7 それらの棒は環に通す。祭壇が担がれるとき、棒が祭壇の両側にあるようにする。
8 祭壇は、板で、中が空洞になるように作る。山であなたに示されたとおりに作らなければならない。
9 次に幕屋の庭を造る。南側は、撚り糸で織った長さ百キュビトの亜麻布の庭の掛け幕を、その側に張る。
10 その柱は二十本、その台座は二十個で青銅、その柱の鉤と頭つなぎは銀とする。
11 同じように、北側も長さ百キュビトの掛け幕とする。その柱は二十本、その台座は二十個で青銅、その柱の鉤と頭つなぎは銀とする。

12 また、庭の西側は幅五十キュビトの掛け幕、その柱は十本、その台座は十個とする。
13 正面の、庭の東側の幅も五十キュビト。
14 門の片側には十五キュビトの掛け幕、その柱は三本、その台座は三個とする。
15 もう片方の側も十五キュビトの掛け幕、その柱は三本、その台座は三個とする。
16 庭の門には、青、紫、緋色の撚り糸、それに撚り糸で織った亜麻布を用いた、長さ二十キュビトの、刺繍した垂れ幕を張る。その柱は四本、その台座は四個とする。
17 庭の周囲の柱はみな、銀の頭つなぎでつなぎ合わせ、その鉤は銀、台座は青銅とする。
18 この庭は長さ百キュビト、幅五十キュビト、そして高さは撚り糸で織った亜麻布の幕の五キュビトとし、その台座は青銅とする。
19 幕屋の奉仕に用いるすべての備品、すべての杭、庭のすべての杭は青銅とする。
20 あなたはイスラエルの子らに命じて、ともしび用の質の良い純粋なオリーブ油を持って来させなさい。ともしびを絶えずともしておくためである。
21 会見の天幕の中で、さとしの板の前にある垂れ幕の外側で、アロンとその子らは、夕方から朝まで主の前にそのともしびを整える。これはイスラエルの子らが代々守るべき永遠の掟である。

第28章

1 あなたは、イスラエルの子らの中から、あなたの兄弟アロンと、彼とともにいる彼の息子たちのナダブとアビフ、エルアザルとイタマルをあなたの近くに来させ、祭司としてわたしに仕えさせよ。
2 また、あなたの兄弟アロンのために、栄光と美を表す聖なる装束を作れ。
3 あなたは、わたしが知恵の霊を満たした、心に知恵ある者たちに告げて、彼らにアロンの装束を作らせなさい。彼を聖別し、祭司としてわたしに仕えさせるためである。
4 彼らが作る装束は次のとおりである。胸当て、エポデ、青服、市松模様の長服、かぶり物、飾り帯。彼らは、あなたの兄弟アロンとその子らが、祭司としてわたしに仕えるために、聖なる装束を作る。
5 彼らは、金色、青、紫、緋色の撚り糸、それに亜麻布を受け取る。
6 彼らに、金色、青、紫、緋色の撚り糸、それに撚り糸で織った亜麻布を用いて、意匠を凝らしてエポデを作らせる。
7 二つの肩当てが、それぞれエポデの両端に付けられ、エポデは一つに結ばれる。
8 エポデの上に来るあや織りの帯はエポデと同じ作りで、金色、青、紫、緋色の撚り糸、それに撚り糸で織った亜麻布を用い、エポデの一部となるようにする。
9 二つの縞めのうを取り、その上にイスラエルの息子たちの名を刻む。
10 六つの名を一つの石に、残りの六つの名をもう一つの石に、生まれた順に刻む。
11 印章を彫る宝石細工を施して、イスラエルの息子たちの名をその二つの石に彫り、それぞれを金縁の細工の中にはめ込む。
12 その二つの石をエポデの肩当てに付け、イスラエルの息子たちが覚えられるための石とする。アロンは主の前で、彼らの名が覚えられるように両肩に載せる。
13 あなたは金縁の細工を作り、

14 また二本の純金の鎖を作り、これを編んでひもとし、このひもの鎖を先の細工に取り付ける。
15 あなたはさばきの胸当てを意匠を凝らして作る。それをエポデの細工と同じように作る。すなわち、金色、青、紫、緋色の撚り糸、それに撚り糸で織った亜麻布を用いて作る。
16 それは正方形で二重にする。長さ一ゼレト、幅一ゼレト。
17 その中に宝石をはめ込み四列にする。第一列は赤めのう、トパーズ、エメラルド。
18 第二列はトルコ石、サファイア、ダイヤモンド。
19 第三列はヒヤシンス石、めのう、紫水晶。
20 第四列は緑柱石、縞めのう、碧玉。これらが金縁の細工の中にはめ込まれる。
21 これらの宝石はイスラエルの息子たちの名にちなむもので、彼らの名にしたがい十二個でなければならない。それらは印章のように、それぞれに名が彫られ、十二部族を表す。
22 また、胸当てのために、撚ったひものような鎖を純金で作る。
23 胸当てのために金の環を二個作り、その二個の環を胸当ての両端に付ける。
24 その胸当ての両端の二個の環に、二本の金のひもを付ける。
25 その二本のひものもう一方の端を、先の二つの金縁の細工と結び、エポデの肩当ての前側に付ける。
26 さらに二個の金の環を作り、それらを胸当ての両端に、エポデに接する胸当ての内側の縁に付ける。
27 また、さらに二個の金の環を作り、これをエポデの二つの肩当ての下端の前に、エポデのあや織りの帯の上部の継ぎ目に、向かい合うように付ける。
28 胸当ては、その環からエポデの環に青ひもで結び付け、エポデのあや織りの帯の上にあるようにし、胸当てがエポデから外れないようにしなければならない。
29 このようにして、アロンが聖所に入るときには、さばきの胸当てにあるイスラエルの息子たちの名をその胸に担う。それらの名が、絶えず主の前で覚えられるようにするためである。
30 さばきの胸当てにはウリムとトンミムを入れ、アロンが主の前に出るときに、それがアロンの胸の上にあるようにする。アロンは絶えず主の前に、イスラエルの息子たちのさばきを胸に担う。
31 エポデの下に着る青服を青の撚り糸だけで作る。
32 その真ん中に、首を通す口を作る。その口の周りには、ほころびないように織物の技法を凝らして縁を付け、よろいの襟のようにする。
33 その裾周りには、青、紫、緋色の撚り糸でざくろを作る。その裾周りのざくろの間には金の鈴を付ける。
34 すなわち、青服の裾周りに、金の鈴、ざくろ、金の鈴、ざくろ、となるようにする。
35 アロンはこれを、務めを行うために着る。彼が聖所に入って主の前に出るとき、またそこを去るとき、その音が聞こえるようにする。彼が死ぬことのないようにするためである。
36 また、純金の札を作り、その上に印章を彫るように『主の聖なるもの』と彫り、
37 これを青ひもに付け、それをかぶり物に付ける。それがかぶり物の前面にくるようにする。
38 これがアロンの額の上にあって、アロンは、イスラエルの子らが聖別する聖なるもの、彼らのすべての聖なる献上物に関わる咎を負う。これは、彼らが主の前に受け入れられるように、絶えずアロンの額の上になければならない。

39 さらに亜麻布で市松模様の長服を作り、亜麻布でかぶり物を作る。飾り帯は刺繍を施して作る。
40 あなたはアロンの子らのために長服を作り、また彼らのために飾り帯を作り、彼らのために、栄光と美を表すターバンを作らなければならない。
41 これらをあなたの兄弟アロン、および彼とともにいるその子らに着せ、彼らに油注ぎをし、彼らを祭司職に任命し、彼らを聖別し、祭司としてわたしに仕えさせよ。
42 彼らのために、裸をおおう亜麻布のももひきを作れ。それは腰からももまで届くようにする。
43 アロンとその子らは、会見の天幕に入るとき、あるいは聖所で務めを行うために祭壇に近づくとき、これを着る。彼らが咎を負って死ぬことのないようにするためである。これは彼と彼の後の子孫のための永遠の掟である。

第29章

1 彼らを聖別し祭司としてわたしに仕えさせるために、彼らになすべきことは次のことである。若い雄牛一頭、傷のない雄羊二匹を取れ。
2 また、種なしパン、油を混ぜた種なしの輪形パン、油を塗った種なしの薄焼きパンを取れ。これらは最良の小麦粉で作る。
3 これらを一つのかごに入れ、そのかごと一緒に、先の一頭の雄牛と二匹の雄羊を連れて来る。
4 アロンとその子らを会見の天幕の入り口に近づかせ、水で彼らを洗う。
5 装束を取り、長服と、エポデの下に着る青服と、エポデと胸当てをアロンに着せ、エポデのあや織りの帯を締める。
6 彼の頭にかぶり物をかぶらせ、そのかぶり物の上に聖なる記章を付ける。
7 注ぎの油を取って彼の頭に注ぎ、彼に油注ぎをする。
8 それから彼の子らを連れて来て、彼らに長服を着せる。
9 アロンとその子らに飾り帯を締め、ターバンを巻く。永遠の掟によって、祭司の職は彼らのものとなる。あなたはアロンとその子らを祭司職に任命せよ。
10 あなたは雄牛を会見の天幕の前に近づかせ、アロンとその子らはその雄牛の頭に手を置く。
11 あなたは会見の天幕の入り口で、主の前で、その雄牛を屠り、
12 その雄牛の血を取り、あなたの指でこれを祭壇の四隅の角に塗る。その血はみな祭壇の土台に注ぐ。
13 その内臓をおおうすべての脂肪、肝臓の小葉、二つの腎臓とその上の脂肪を取り出し、これらを祭壇の上で焼いて煙にする。
14 その雄牛の肉と皮と汚物は宿営の外で火で焼く。これは罪のきよめのささげ物である。
15 また、一匹の雄羊を取り、アロンとその子らはその雄羊の頭に手を置く。
16 その雄羊を屠り、その血を取り、これを祭壇の側面に振りかける。
17 また、その雄羊を各部に切り分け、その内臓とその足を洗い、これらをほかの部位や頭と一緒にし、
18 その雄羊を全部、祭壇の上で焼いて煙にする。これは主への全焼のささげ物で、主への芳ばしい香り、食物のささげ物である。
19 もう一匹の雄羊を取り、アロンとその子らはその雄羊の頭に手を置く。

20 その雄羊を屠り、その血を取って、アロンの右の耳たぶと、その子らの右の耳たぶ、また彼らの右手の親指と右足の親指に塗り、その血を祭壇の側面に振りかける。
21 祭壇の上の血と、注ぎの油を取って、それをアロンとその装束、彼とともにいるその子らとその装束にかける。こうして、彼とその装束、彼とともにいるその子らとその装束は聖なるものとなる。
22 次に、その雄羊の脂肪、あぶら尾、内臓をおおう脂肪、肝臓の小葉、二つの腎臓とその上の脂肪、また右のももを取る。これは任職の雄羊である。
23 また、主の前にある種なしパンのかごから、円形パン一つと、油を混ぜた輪形パン一つと、薄焼きパン一つを取る。
24 そして、そのすべてをアロンの手のひらとその子らの手のひらに載せ、奉献物として主の前で揺り動かす。
25 それらを彼らの手から取り、全焼のささげ物とともに、主の前の芳ばしい香りとして祭壇の上で焼いて煙にする。これは主への食物のささげ物である。
26 アロンの任職のための雄羊の胸肉を取り、これを奉献物として主に向かって揺り動かす。これは、あなたの受ける分となる。
27 アロンとその子らの任職のための雄羊の、奉献物として揺り動かされた胸肉と、奉納物として献げられたもも肉とを聖別する。
28 それは、アロンとその子らがイスラエルの子らから受け取る永遠の割り当てとなる。それは奉納物である。それはイスラエルの子らからの交わりのいけにえの奉納物、主への奉納物であるから。
29 アロンの聖なる装束は彼の跡を継ぐ子らのものとなり、彼らはこれを着けて油注がれ、これを着けて祭司職に任命される。
30 彼の子らのうちで、彼に代わって聖所で務めを行うために会見の天幕に入る祭司は、七日間、これを着る。
31 あなたは任職のための雄羊を取り、聖なる所でその肉を煮なければならない。
32 アロンとその子らは会見の天幕の入り口で、その雄羊の肉と、かごの中のパンを食べる。
33 彼らは、自分たちを任職し聖別するため、宥めに用いられたものを食べる。一般の者は食べてはならない。これらは聖なるものである。
34 もし任職のための肉またはパンが朝まで残ったなら、その残りは火で燃やす。食べてはならない。これは聖なるものである。
35 わたしがあなたに命じたすべてにしたがって、このようにアロンとその子らに行え。七日間、任職式を行わなければならない。
36 毎日、宥めのために、罪のきよめのささげ物として雄牛一頭を献げる。あなたはその上で宥めを行い、その祭壇から罪を除く。聖別するためにそれに油注ぎをする。
37 七日間、祭壇のために宥めを行い、それを聖別する。祭壇は最も聖なるものとなる。祭壇に触れるものはすべて、聖なるものとなる。
38 祭壇の上に献げるべき物は次のとおりである。毎日絶やすことなく、一歳の雄の子羊二匹。
39 朝、一匹の雄の子羊を献げ、夕暮れに、もう一匹の雄の子羊を献げる。
40 一匹の雄の子羊には、上質のオリーブ油四分の一ヒンを混ぜた最良の小麦粉十分の一エパと、また注ぎのささげ物としてぶどう酒四分の一ヒンが添えられる。

41 もう一匹の雄の子羊は夕暮れに献げなければならない。これには、朝の穀物のささげ物や注ぎのささげ物を同じく添えて、献げなければならない。それは芳ばしい香りのためであり、主への食物のささげ物である。
42 これは、主の前、会見の天幕の入り口での、あなたがたの代々にわたる常供の全焼のささげ物である。その場所でわたしはあなたがたに会い、その場所であなたと語る。
43 その場所でわたしはイスラエルの子らと会う。そこは、わたしの栄光によって聖なるものとされる。
44 わたしは会見の天幕と祭壇を聖別する。またアロンとその子らを聖別して、彼らを祭司としてわたしに仕えさせる。
45 わたしはイスラエルの子らのただ中に住み、彼らの神となる。
46 彼らは、わたしが彼らの神、主であり、彼らのただ中に住むために、彼らをエジプトの地から導き出したことを知るようになる。わたしは彼らの神、主である。

第30章

1 また、香をたくための祭壇を作れ。それをアカシヤ材で作る。
2 長さ一キュビト、幅一キュビトの正方形で、その高さは二キュビトとする。祭壇から角が出ているようにする。
3 祭壇の上面と、側面すべて、および角には純金をかぶせ、その周りには金の飾り縁を作る。
4 また、その祭壇のために二つの金の環を作る。その飾り縁の下の両側に、相対するように作る。これは祭壇を担ぐ棒を通すところとする。
5 その棒はアカシヤ材で作り、それに金をかぶせる。
6 それを、あかしの箱をさえぎる垂れ幕の手前、わたしがあなたと会う、あかしの箱の上の『宥めの蓋』の手前に置く。
7 アロンはその上で香りの高い香をたく。朝ごとにともしびを整え、煙を立ち上らせる。
8 アロンは夕暮れにともしびをともすときにも、煙を立ち上らせる。これは、あなたがたの代々にわたる、主の前の常供の香のささげ物である。
9 あなたがたはその上で、異なった香や全焼のささげ物や穀物のささげ物を献げてはならない。また、その上に、注ぎのぶどう酒を注いではならない。
10 アロンは年に一度、その角の上で宥めを行う。その祭壇のために、罪のきよめのささげ物の、宥めのための血によって、彼は代々にわたり、年に一度、宥めを行う。これは主にとって最も聖なるものである。」
11 主はモーセに告げられた。
12 「あなたがイスラエルの子らの登録のためにその頭数を調べるとき、各人はその登録にあたり、自分のたましいの償い金を主に納めなければならない。これは、彼らの登録にあたり、彼らにわざわいが起こらないようにするためである。
13 登録される者がそれぞれ納めるのは、これである。聖所のシェケルで半シェケル。一シェケルは二十ゲラで、半シェケルが主への奉納物である。
14 二十歳またそれ以上の者で、登録される者はみな、主にこの奉納物を納める。

15 あなたがたのたましいのために宥めを行おうと、主に奉納物を納めるときには、富む人も半シェケルより多く払ってはならず、貧しい人もそれより少なく払ってはならない。
16 イスラエルの子らから償いのための銀を受け取ったなら、それを会見の天幕の用に充てる。こうしてそれは、イスラエルの子らにとって、あなたがたのたましいに宥めがなされたことに対する、主の前での記念となる。」
17 主はまた、モーセに告げられた。
18 「洗いのために洗盤とその台を青銅で作り、それを会見の天幕と祭壇の間に置き、その中に水を入れよ。
19 アロンとその子らは、そこで手と足を洗う。
20 彼らが会見の天幕に入るときには水を浴びる。彼らが死ぬことのないようにするためである。また、彼らが、主への食物のささげ物を焼いて煙にする務めのために祭壇に近づくときにも、
21 その手、その足を洗う。彼らが死ぬことのないようにするためである。これは、彼とその子孫にとって代々にわたる永遠の掟である。」
22 主はモーセにこう告げられた。
23 「あなたは最上の香料を取れ。液体の没薬を五百シェケル、香りの良いシナモンをその半分の二百五十シェケル、香りの良い菖蒲を二百五十シェケル、
24 桂枝を聖所のシェケルで五百シェケル、オリーブ油を一ヒン。
25 あなたは調香の技法を凝らしてこれらを調合し、聖なる注ぎの油を作る。これが聖なる注ぎの油となる。
26 そして、次のものに油注ぎを行う。会見の天幕、あかしの箱、
27 机とそのすべての備品、燭台とそのすべての器具、香の祭壇、
28 全焼のささげ物の祭壇とそのすべての用具、洗盤とその台。
29 こうして、これらを聖別するなら、それは最も聖なるものとなる。これらに触れるものはすべて、聖なるものとなる。
30 あなたはアロンとその子らに油注ぎを行い、彼らを聖別して、祭司としてわたしに仕えさせなければならない。
31 あなたはイスラエルの子らに告げよ。 これは、あなたがたの代々にわたり、わたしにとって聖なる注ぎの油となる。
32 これを人のからだに注いではならない。また、この割合で、これと似たものを作ってはならない。これは聖なるものであり、あなたがたにとっても聖なるものでなければならない。
33 すべて、これと似たものを調合する者、または、これをほかの人に付ける者は、だれでも自分の民から断ち切られる。」
34 主はモーセに言われた。「あなたは香料のナタフ香、シェヘレテ香、ヘルベナ香と純粋な乳香を取れ。これらは、それぞれ同じ量でなければならない。
35 これをもって、調香の技法を凝らして調合された、塩気のある、きよい、聖なる香を作れ。
36 また、その一部を打ち砕いて粉にし、その一部を、わたしがあなたと会う会見の天幕の中のあかしの箱の前に供える。これは、あなたがたにとって最も聖なるものである。
37 その割合で作る香を自分たちのために作ってはならない。それはあなたにとって、主に対して聖なるものである。
38 これと似たものを作って、これを嗅ぐ者は、自分の民の間から断ち切られる。」

第31章

1 主はモーセに次のように告げられた。
2 「見よ。わたしは、ユダ部族に属する、フルの子ウリの子ベツァルエルを名指して召し、
3 彼に、知恵と英知と知識とあらゆる務めにおいて、神の霊を満たした。
4 それは、彼が金や銀や青銅の細工に意匠を凝らし、
5 はめ込みの宝石を彫刻し、木を彫刻し、あらゆる仕事をするためである。
6 見よ。わたしは、ダン部族に属する、アヒサマクの子オホリアブを彼とともにいるようにする。わたしは、すべて心に知恵ある者の心に知恵を授ける。彼らは、わたしがあなたに命じたすべてのものを作る。
7 すなわち、会見の天幕、あかしの箱、その上の『宥めの蓋』、天幕のすべての備品、
8 机とその備品、きよい燭台とそのすべての器具、香の祭壇、
9 全焼のささげ物の祭壇とそのすべての用具、洗盤とその台、
10 式服、すなわち、祭司アロンの聖なる装束と、その子らが祭司として仕えるための装束、
11 注ぎの油、聖所のための香り高い香である。彼らは、すべて、わたしがあなたに命じたとおりに作らなければならない。」
12 主はモーセに告げられた。
13 「あなたはイスラエルの子らに告げよ。 あなたがたは、必ずわたしの安息を守らなければならない。これは、代々にわたり、わたしとあなたがたとの間のしるしである。わたしが主であり、あなたがたを聖別する者であることを、あなたがたが知るためである。
14 あなたがたは、この安息を守らなければならない。これは、あなたがたにとって聖なるものだからである。これを汚す者は必ず殺されなければならない。この安息中に仕事をする者はだれでも、自分の民の間から断ち切られる。
15 六日間は仕事をする。しかし、七日目は主の聖なる全き安息である。安息日に仕事をする者は、だれでも必ず殺されなければならない。
16 イスラエルの子らはこの安息を守り、永遠の契約として、代々にわたり、この安息を守らなければならない。
17 これは永遠に、わたしとイスラエルの子らとの間のしるしである。それは主が六日間で天と地を造り、七日目にやめて、休息したからである。」
18 こうして主は、シナイ山でモーセと語り終えたとき、さとしの板を二枚、すなわち神の指で書き記された石の板をモーセにお授けになった。

第32章

1 民はモーセが山から一向に下りて来ようとしないのを見て、アロンのもとに集まり、彼に言った。「さあ、われわれに先立って行く神々を、われわれのために造ってほしい。われわれをエジプトの地から導き上った、あのモーセという者がどうなったのか、分からないから。」
2 それでアロンは彼らに言った。「あなたがたの妻や、息子、娘たちの耳にある金の耳輪を外して、私のところに持って来なさい。」
3 民はみな、その耳にある金の耳輪を外して、アロンのところに持って来た。

4 彼はそれを彼らの手から受け取ると、のみで鋳型を造り、それを鋳物の子牛にした。彼らは言
った。「イスラエルよ、これがあなたをエジプトの地から導き上った、あなたの神々だ。」
5 アロンはこれを見て、その前に祭壇を築いた。そして、アロンは呼びかけて言った。「明日は
主への祭りである。」
6 彼らは翌朝早く全焼のささげ物を献げ、交わりのいけにえを供えた。そして民は、座っては食
べたり飲んだりし、立っては戯れた。
7 主はモーセに言われた。「さあ、下りて行け。あなたがエジプトの地から連れ上ったあなたの
民は、堕落してしまった。
8 彼らは早くも、わたしが彼らに命じた道から外れてしまった。彼らは自分たちのために鋳物の
子牛を造り、それを伏し拝み、それにいけにえを献げ、『イスラエルよ、これがあなたをエジ
プトの地から導き上った、あなたの神々だ』と言っている。」
9 主はまた、モーセに言われた。「わたしはこの民を見た。これは実に、うなじを固くする民
だ。
10 今は、わたしに任せよ。わたしの怒りが彼らに向かって燃え上がり、わたしが彼らを絶ち滅ぼ
すためだ。しかし、わたしはあなたを大いなる国民とする。」
11 しかしモーセは、自分の神、主に嘆願して言った。「主よ。あなたが偉大な力と力強い御手を
もって、エジプトの地から導き出されたご自分の民に向かって、どうして御怒りを燃やされる
のですか。
12 どうしてエジプト人に、『神は、彼らを山地で殺し、地の面から絶ち滅ぼすために、悪意をも
って彼らを連れ出したのだ』と言わせてよいでしょうか。どうか、あなたの燃える怒りを収
め、ご自身の民へのわざわいを思い直してください。
13 あなたのしもべアブラハム、イサク、イスラエルを思い起こしてください。あなたはご自分に
かけて彼らに誓い、そして彼らに、『わたしはあなたがたの子孫を空の星のように増し加え、
わたしが約束したこの地すべてをあなたがたの子孫に与え、彼らは永久にこれをゆずりとして
受け継ぐ』と言われました。」
14 すると主は、その民に下すと言ったわざわいを思い直された。
15 モーセは向きを変え、山から下りた。彼の手には二枚のさとしの板があった。板は両面に、す
なわち表と裏に書かれていた。
16 その板は神の作であった。その筆跡は神の筆跡で、その板に刻まれていた。
17 ヨシュアは民の叫ぶ大声を聞いて、モーセに言った。「宿営の中に戦の声があります。」
18 モーセは言った。「あれは勝利を叫ぶ声でも 敗北を嘆く声でもない。 私が聞くのは歌いさわ
ぐ声である。」
19 宿営に近づいて、子牛と踊りを見るなり、モーセの怒りは燃え上がった。そして、手にしてい
たあの板を投げ捨て、それらを山のふもとで砕いた。
20 それから、彼らが造った子牛を取って火で焼き、さらにそれを粉々に砕いて水の上にまき散ら
し、イスラエルの子らに飲ませた。
21 モーセはアロンに言った。「この民はあなたに何をしたのですか。あなたが彼らの上にこのよ
うな大きな罪をもたらすとは。」
22 アロンは言った。「わが主よ、どうか怒りを燃やさないでください。あなた自身、この民が悪
に染まっているのをよくご存じのはずです。

23 彼らは私に言いました。『われわれに先立って行く神々を、われわれのために造ってほしい。
われわれをエジプトの地から連れ上った、あのモーセという者がどうなったのか、分からない
から。』
24 それで私は彼らに『だれでも金を持っている者は、それを取り外せ』と言いました。彼らはそ
れを私に渡したので、私がこれを火に投げ入れたところ、この子牛が出て来たのです。」
25 モーセは、民が乱れていて、アロンが彼らを放っておいたので、敵の笑いものとなっているの
を見た。
26 そこでモーセは宿営の入り口に立って、「だれでも主につく者は私のところに来なさい」と言
った。すると、レビ族がみな彼のところに集まった。
27 そこで、モーセは彼らに言った。「イスラエルの神、主はこう言われる。各自腰に剣を帯び
よ。宿営の中を入り口から入り口へ行き巡り、各自、自分の兄弟、自分の友、自分の隣人を殺
せ。」
28 レビ族はモーセのことばどおりに行った。その日、民のうちの約三千人が倒れた。
29 モーセは言った。「あなたがたは各自、その子、その兄弟に逆らっても、今日、主に身を献げ
た。主があなたがたに、今日、祝福を与えてくださるように。」
30 翌日になって、モーセは民に言った。「あなたがたは大きな罪を犯した。だから今、私は主の
ところに上って行く。もしかすると、あなたがたの罪のために宥めをすることができるかもし
れない。」
31 そこでモーセは主のところに戻って言った。「ああ、この民は大きな罪を犯しました。自分た
ちのために金の神を造ったのです。
32 今、もしあなたが彼らの罪を赦してくださるなら──。しかし、もし、かなわないなら、どうか
あなたがお書きになった書物から私の名を消し去ってください。」
33 主はモーセに言われた。「わたしの前に罪ある者はだれであれ、わたしの書物から消し去る。
34 しかし、今は行って、わたしがあなたに告げた場所に民を導け。見よ、わたしの使いがあなた
の前を行く。だが、わたしが報いる日に、わたしは彼らの上にその罪の報いをする。」
35 こうして主は民を打たれた。彼らが子牛を造ったからである。それはアロンが造ったのであっ
た。

第33章

1 主はモーセに言われた。「あなたも、あなたがエジプトの地から連れ上った民も、ここから上
って行って、わたしがアブラハム、イサク、ヤコブに誓って、『これをあなたの子孫に与え
る』と言った地に行け。
2 わたしはあなたがたの前に一人の使いを遣わし、カナン人、アモリ人、ヒッタイト人、ペリジ
人、ヒビ人、エブス人を追い払い、
3 乳と蜜の流れる地にあなたがたを行かせる。しかし、わたしは、あなたがたのただ中にあって
は上らない。あなたがたはうなじを固くする民なので、わたしが途中であなたがたを絶ち滅ぼ
してしまわないようにするためだ。」
4 民はこの悪い知らせを聞いて嘆き悲しみ、一人も飾り物を身に着ける者はいなかった。
5 主はモーセに次のように命じておられた。「イスラエルの子らに言え。『あなたがたは、うな
じを固くする民だ。一時でも、あなたがたのただ中にあって上って行こうものなら、わたしは

あなたがたを絶ち滅ぼしてしまうだろう。今、飾り物を身から取り外しなさい。そうすれば、あなたがたのために何をするべきかを考えよう。』」

6 それでイスラエルの子らは、ホレブの山以後、自分の飾り物を外した。

7 さて、モーセはいつも天幕を取り、自分のためにこれを宿営の外の、宿営から離れたところに張り、そして、これを会見の天幕と呼んでいた。だれでも主に伺いを立てる者は、宿営の外にある会見の天幕に行くのを常としていた。

8 モーセがこの天幕に出て行くときは、民はみな立ち上がり、それぞれ自分の天幕の入り口に立って、モーセが天幕に入るまで彼を見守った。

9 モーセがその天幕に入ると、雲の柱が降りて来て、天幕の入り口に立った。こうして主はモーセと語られた。

10 雲の柱が天幕の入り口に立つのを見ると、民はみな立ち上がって、それぞれ自分の天幕の入り口で伏し拝んだ。

11 主は、人が自分の友と語るように、顔と顔を合わせてモーセと語られた。モーセが宿営に帰るとき、彼の従者でヌンの子ヨシュアという若者が天幕から離れないでいた。

12 さて、モーセは主に言った。「ご覧ください。あなたは私に『この民を連れ上れ』と言われます。しかし、だれを私と一緒に遣わすかを知らせてくださいません。しかも、あなたご自身が、『わたしは、あなたを名指して選び出した。あなたは特にわたしの心にかなっている』と言われました。

13 今、もしも私がみこころにかなっているのでしたら、どうかあなたの道を教えてください。そうすれば、私があなたを知ることができ、みこころにかなうようになれます。この国民があなたの民であることを心に留めてください。」

14 主は言われた。「わたしの臨在がともに行き、あなたを休ませる。」

15 モーセは言った。「もしあなたのご臨在がともに行かないのなら、私たちをここから導き上らないでください。

16 私とあなたの民がみこころにかなっていることは、いったい何によって知られるのでしょう。それは、あなたが私たちと一緒に行き、私とあなたの民が地上のすべての民と異なり、特別に扱われることによるのではないでしょうか。」

17 主はモーセに言われた。「あなたの言ったそのことも、わたしはしよう。あなたはわたしの心にかない、あなたを名指して選び出したのだから。」

18 モーセは言った。「どうか、あなたの栄光を私に見せてください。」

19 主は言われた。「わたし自身、わたしのあらゆる良きものをあなたの前に通らせ、主の名であなたの前に宣言する。わたしは恵もうと思う者を恵み、あわれもうと思う者をあわれむ。」

20 また言われた。「あなたはわたしの顔を見ることはできない。人はわたしを見て、なお生きていることはできないからである。」

21 また主は言われた。「見よ、わたしの傍らに一つの場所がある。あなたは岩の上に立て。

22 わたしの栄光が通り過ぎるときには、わたしはあなたを岩の裂け目に入れる。わたしが通り過ぎるまで、この手であなたをおおっておく。

23 わたしが手をのけると、あなたはわたしのうしろを見るが、わたしの顔は決して見られない。」

第34章

1 主はモーセに言われた。「前のものと同じような二枚の石の板を切り取れ。わたしはその石の
板の上に、あなたが砕いたこの前の石の板にあった、あのことばを書き記す。
2 朝までに準備をし、朝シナイ山に登って、その山の頂でわたしの前に立て。
3 だれも、あなたと一緒に登ってはならない。また、だれも、山のどこにも人影があってはなら
ない。また、羊でも牛でも、その山のふもとで草を食べていてはならない。」
4 そこで、モーセは前のものと同じような二枚の石の板を切り取り、翌朝早く、主が命じられた
とおりにシナイ山に登った。彼は手に二枚の石の板を持っていた。
5 主は雲の中にあって降りて来られ、彼とともにそこに立って、主の名を宣言された。
6 主は彼の前を通り過ぎるとき、こう宣言された。「主、主は、あわれみ深く、情け深い神。怒
るのに遅く、恵みとまことに富み、
7 恵みを千代まで保ち、咎と背きと罪を赦す。しかし、罰すべき者を必ず罰して、父の咎を子
に、さらに子の子に、三代、四代に報いる者である。」
8 モーセは急いで地にひざまずき、ひれ伏した。
9 彼は言った。「ああ、主よ。もし私がみこころにかなっているのでしたら、どうか主が私たち
のただ中にいて、進んでくださいますように。確かに、この民はうなじを固くする民ですが、
どうか私たちの咎と罪を赦し、私たちをご自分の所有としてくださいますように。」
10 主は言われた。「今ここで、わたしは契約を結ぼう。わたしは、あなたの民がみないるところ
で、地のどこにおいても、また、どの国においても、かつてなされたことがない奇しいことを
行う。あなたがそのただ中にいるこの民はみな、主のわざを見る。わたしがあなたとともに行
うことは恐るべきことである。
11 わたしが今日あなたに命じることを守れ。見よ、わたしは、アモリ人、カナン人、ヒッタイト
人、ペリジ人、ヒビ人、エブス人を、あなたの前から追い払う。
12 あなたは、あなたが入って行くその地の住民と契約を結ばないように注意せよ。それがあなた
のただ中で罠とならないようにするためだ。
13 いや、あなたがたは彼らの祭壇を打ち壊し、彼らの石の柱を打ち砕き、アシェラ像を切り倒さ
なければならない。
14 あなたは、ほかの神を拝んではならない。主は、その名がねたみであり、ねたみの神であるか
ら。
15 あなたはその地の住民と契約を結ばないようにせよ。彼らは自分たちの神々と淫行をし、自分
たちの神々にいけにえを献げ、あなたを招く。あなたは、そのいけにえを食べるようになる。
16 彼らの娘たちをあなたの息子たちの妻とするなら、その娘たちは自分たちの神々と淫行を行
い、あなたの息子たちに自分たちの神々と淫行を行わせるようになる。
17 あなたは、自分のために鋳物の神々を造ってはならない。
18 あなたは種なしパンの祭りを守らなければならない。アビブの月の定められた時に七日間、わ
たしが命じた種なしパンを食べる。あなたはアビブの月にエジプトを出たからである。
19 最初に胎を開くものはすべて、わたしのものである。あなたの家畜の雄の初子はみな、牛も羊
もそうである。

20 ただし、ろばの初子は羊で贖わなければならない。もし贖わないなら、その首を折る。また、
あなたの息子のうち長子はみな、贖わなければならない。だれも、何も持たずに、わたしの前
に出てはならない。
21 あなたは六日間は働き、七日目には休まなければならない。耕作の時にも刈り入れの時にも、
休まなければならない。
22 小麦の刈り入れの初穂のためには七週の祭りを、年の変わり目には収穫祭を行わなければなら
ない。
23 年に三度、男子はみな、イスラエルの神、主、主の前に出なければならない。
24 わたしがあなたの前から異邦の民を追い出し、あなたの国境を広げるので、あなたが年に三
度、あなたの神、主の前に出ようとして上って行くときも、あなたの地を欲しがる者はだれも
いない。
25 わたしへのいけにえの血を、種入りのパンに添えて献げてはならない。また、過越の祭りのい
けにえを朝まで残しておいてはならない。
26 あなたの土地から取れる初穂の最上のものを、あなたの神、主の家に持って来なければならな
い。 あなたは子やぎをその母の乳で煮てはならない。 」
27 主はモーセに言われた。「 これらのことばを書き記せ。わたしは、これらのことばによって、
あなたと、そしてイスラエルと契約を結んだからである。 」
28 モーセはそこに四十日四十夜、主とともにいた。彼はパンも食べず、水も飲まなかった。そし
て、石の板に契約のことば、十のことばを書き記した。
29 それから、モーセはシナイ山から下りて来た。モーセが山を下りて来たとき、その手に二枚の
さとしの板を持っていた。モーセは、主と話したために自分の顔の肌が輝きを放っているのを
知らなかった。
30 アロンと、イスラエルの子らはみなモーセを見た。なんと、彼の顔の肌は輝きを放っていた。
それで彼らは彼に近づくのを恐れた。
31 モーセが彼らを呼び寄せると、アロンと、会衆の上に立つ族長はみな彼のところに戻って来
た。モーセは彼らに話しかけた。
32 それから、イスラエルの子らはみな近寄って来た。彼は主がシナイ山で告げられたことを、こ
とごとく彼らに命じた。
33 モーセは彼らと語り終えると、顔に覆いを掛けた。
34 モーセが主と語るために主の前に行くとき、彼はその覆いを外に出て来るまで外していた。外
に出て来ると、命じられたことをイスラエルの子らに告げた。
35 イスラエルの子らがモーセの顔を見ると、モーセの顔の肌は輝きを放っていた。モーセは、主
と語るために入って行くまで、自分の顔に再び覆いを掛けるのを常としていた。

第35章

1 モーセはイスラエルの全会衆を集めて、彼らに言った。「 これは、主が行えと命じられたこと
である。
2 六日間は仕事をする。しかし、七日目は、あなたがたにとって主の聖なる全き安息である。こ
の日に仕事をする者は、だれでも殺されなければならない。
3 安息日には、あなたがたの住まいのどこであっても、火をたいてはならない。 」

4 モーセはイスラエルの全会衆に告げた。「これは主が命じられたことである。
5 あなたがたの中から主への奉納物を受け取りなさい。すべて、進んで献げる心のある人に、主への奉納物を持って来させなさい。すなわち、金、銀、青銅、
6 青、紫、緋色の撚り糸、亜麻布、やぎの毛、
7 赤くなめした雄羊の皮、じゅごんの皮、アカシヤ材、
8 ともしび用の油、注ぎの油と、香り高い香のための香料、
9 エポデや胸当てにはめ込む、縞めのうや宝石である。
10 あなたがたのうち、心に知恵ある者はみな来て、主が命じられたものをすべて造らなければならない。
11 幕屋と、その天幕、覆い、留め金、板、横木、柱、台座、
12 箱と、その棒、『宥めの蓋』、仕切りの垂れ幕、
13 机と、その棒とそのすべての備品、臨在のパン、
14 ともしびのための燭台と、その器具、ともしび皿、ともしび用の油、
15 香の祭壇と、その棒、注ぎの油、香り高い香、そして幕屋の入り口に付ける入り口の垂れ幕、
16 全焼のささげ物の祭壇と、それに付属する青銅の格子、その棒とそのすべての用具、洗盤とその台、
17 庭の掛け幕と、その柱、その台座、庭の門の垂れ幕、
18 幕屋の杭、庭の杭、そのひも、
19 聖所で務めを行うための式服、すなわち、祭司アロンの聖なる装束と、祭司として仕える彼の子らの装束である。」
20 イスラエルの全会衆はモーセの前から立ち去った。
21 心を動かされた者、霊に促しを受けた者はみな、会見の天幕の仕事のため、そのあらゆる奉仕のため、また聖なる装束のために、主への奉納物を持って来た。
22 進んで献げる心のある者はみな、男も女も、飾り輪、耳輪、指輪、首飾り、すべての金の飾り物を持って来た。金の奉献物を主に献げる者はみな、そのようにした。
23 また、青、紫、緋色の撚り糸、亜麻布、やぎの毛、赤くなめした雄羊の皮、じゅごんの皮を持っている者はみな、それを持って来た。
24 銀や青銅の奉納物を献げる者はみな、それを主への奉納物として持って来た。アカシヤ材を持っている者はみな、奉仕のあらゆる仕事のためにそれを持って来た。
25 また、心に知恵ある女もみな、自分の手で紡ぎ、その紡いだ青、紫、緋色の撚り糸、それに亜麻布を持って来た。
26 心を動かされ、知恵を用いたいと思った女たちはみな、やぎの毛を紡いだ。
27 部族の長たちは、エポデと胸当てにはめ込む、縞めのうや宝石を持って来た。
28 また、ともしび、注ぎの油のため、また香りの高い香のために、香料と油を持って来た。
29 イスラエルの子らは男も女もみな、主がモーセを通して行うように命じられたすべての仕事のために、心から進んで献げたのであり、それを進んで献げるものとして主に持って来た。
30 モーセはイスラエルの子らに言った。「見よ。主は、ユダ部族の、フルの子ウリの子ベツァルエルを名指して召し、
31 彼に、知恵と英知と知識とあらゆる仕事において、神の霊を満たされた。

32 それは、彼が金や銀や青銅の細工に意匠を凝らし、
33 はめ込みの宝石を彫刻し、木を彫刻し、意匠を凝らす仕事をするためである。
34 また、彼の心に人を教える力をお与えになった。彼と、ダン部族のアヒサマクの子オホリアブに、そのようにされた。
35 主は彼らをすぐれた知恵で満たされた。それは彼らが、あらゆる仕事と巧みな設計をなす者として、彫刻する者、設計する者、青、紫、緋色の撚り糸と亜麻布で刺繍する者、また機織りをする者の仕事を成し遂げるためである。

第36章

1 ベツァルエルとオホリアブ、および、聖所の奉仕のあらゆる仕事をする知恵と英知を主に授けられた、心に知恵ある者はみな、すべて主が命じられたとおりに仕事をしなければならない。」
2 モーセは、ベツァルエルとオホリアブ、および主が心に知恵を授けられた、すべて心に知恵ある者、またその仕事をするために進み出ようと、心を動かされた者をみな呼び寄せた。
3 彼らは、聖所を造る奉仕の仕事のためにイスラエルの子らが持って来たすべての奉納物を、モーセから受け取った。しかしイスラエルの子らは、なおも朝ごとに、進んで献げるものを彼のところに持って来た。
4 そこで、聖所のすべての仕事をしていた知恵のある者はみな、それぞれ自分がしていた仕事から離れてやって来て、
5 モーセに告げて言った。「民は何度も持って来ます。主がせよと命じられた仕事のためには、あり余るほどのことです。」
6 それでモーセは命じて、宿営中に告げ知らせた。「男も女も、聖所の奉納物のためにこれ以上の仕事を行わないように。」こうして民は持って来るのをやめた。
7 手持ちの材料は、すべての仕事をするのに十分であり、あり余るほどであった。
8 仕事に携わっている者のうち、心に知恵ある者はみな、幕屋を十枚の幕で造った。幕は、撚り糸で織った亜麻布、青、紫、緋色の撚り糸を用い、意匠を凝らしてケルビムを織り出した。
9 幕の長さはそれぞれ二十八キュビト、幕の幅はそれぞれ四キュビト、幕はみな同じ寸法とした。
10 五枚の幕を互いにつなぎ合わせ、もう五枚の幕も互いにつなぎ合わせた。
11 つなぎ合わせたものの端にある幕の縁に、青いひもの輪を付け、もう一つのつなぎ合わせたものの端にある幕の縁にも、そのようにした。
12 その一枚の幕に五十個の輪を付け、もう一つのつなぎ合わせた幕の端にも五十個の輪を付け、その輪を互いに向かい合わせにした。
13 金の留め金を五十個作り、その留め金で幕を互いにつなぎ合わせ、こうして一つの幕屋にした。
14 また、幕屋の上に掛ける天幕のために、やぎの毛の幕を作った。その幕を十一枚作った。
15 幕の長さはそれぞれ三十キュビト、幕の幅はそれぞれ四キュビト、その十一枚の幕は同じ寸法とした。
16 そのうち五枚の幕を一つに、もう六枚の幕も一つにつなぎ合わせ、

17 つなぎ合わせたものの端にある幕の縁には五十個の輪を付け、もう一つのつなぎ合わせた幕の縁にも五十個の輪を付けた。
18 青銅の留め金を五十個作り、天幕をつなぎ合わせて一つにした。
19 天幕のために、赤くなめした雄羊の皮で覆いを作り、さらに、その上に掛ける覆いをじゅごんの皮で作った。
20 さらに幕屋のために、アカシヤ材で、まっすぐに立てる板を作った。
21 一枚の板は、長さ十キュビト、板一枚の幅は一キュビト半。
22 板一枚ごとに、はめ込みのほぞを二つ作り、幕屋のすべての板にそのようにした。
23 こうして幕屋のために板を作った。南側に二十枚。
24 その二十枚の板の下に銀の台座を四十個作った。一枚の板の下に、二つのほぞのために二個の台座、ほかの板の下にも、二つのほぞのために二個の台座を作った。
25 幕屋のもう一つの側、北側に板二十枚。
26 銀の台座四十個。すなわち、一枚の板の下に二個の台座。次の板の下にも二個の台座。
27 幕屋のうしろ、西側に板六枚を作った。
28 幕屋のうしろの両隅に板二枚を作った。
29 これらは底部では別々であるが、上部では、一つの環のところで一つに合わさるようにした。二枚とも、そのように作った。これらが両隅である。
30 板は八枚、その銀の台座は十六個。すなわち、一枚の板の下に二個ずつの台座があった。
31 また、アカシヤ材で横木を作った。すなわち、幕屋の一方の側の板のために五本、
32 幕屋のもう一方の側の板のために横木五本、幕屋のうしろ、西側の板のために横木を五本作った。
33 それから、板の中間を端から端まで通る中央横木を作った。
34 板には金をかぶせ、横木を通す環を金で作った。横木にも金をかぶせた。
35 また、青、紫、緋色の撚り糸、それに撚り糸で織った亜麻布を用いて、垂れ幕を作った。これに意匠を凝らしてケルビムを織り出した。
36 その垂れ幕のために、金をかぶせたアカシヤ材の四本の柱を作った。それらの鉤は金であった。また、柱のために四つの銀の台座を鋳造した。
37 天幕の入り口のために、青、紫、緋色の撚り糸、それに撚り糸で織った亜麻布を用い、刺繍を施して垂れ幕を作った。
38 また、五本の柱とその鉤を作り、柱頭と頭つなぎに金をかぶせた。その五つの台座は青銅であった。

第37章

1 ベツァルエルは、アカシヤ材で、長さ二キュビト半、幅一キュビト半、高さ一キュビト半の箱を作り、
2 その内側と外側に純金をかぶせ、その周りに金の飾り縁を作った。
3 箱のために金の環を四つ鋳造し、その四隅の基部に取り付けた。一方の側に二つの環を、もう一方の側にもう二つの環を取り付けた。
4 また、アカシヤ材で棒を作り、それに金をかぶせ、

5 箱を担ぐために、その棒を箱の両側の環に通した。
6 さらに、純金で「宥めの蓋」を作った。その長さは二キュビト半、幅は一キュビト半。
7 また、二つの金のケルビムを作った。槌で打って、「宥めの蓋」の両端に作った。
8 一つを一方の端に、もう一つを他方の端に作った。「宥めの蓋」の一部として、ケルビムをその両端に作った。
9 ケルビムは両翼を上の方に広げ、その翼で「宥めの蓋」をおおっていた。互いに向かい合って、ケルビムの顔が「宥めの蓋」の方を向いていた。
10 彼はアカシヤ材で机を作った。その長さは二キュビト、幅は一キュビト、高さは一キュビト半であった。
11 これに純金をかぶせ、その周りに金の飾り縁を作った。
12 その周りに一手幅の枠を作り、その枠の周りに金の飾り縁を作った。
13 その机のために金の環を四つ鋳造し、四本の脚のところの四隅にその環を取り付けた。
14 その環は枠の脇に付け、机を担ぐ棒を入れるところとした。
15 アカシヤ材で机を担ぐための棒を作り、これに金をかぶせた。
16 また、机の上の備品、すなわち、注ぎのささげ物を注ぐための皿、ひしゃく、水差し、瓶を純金で作った。
17 また彼は燭台を純金で作った。その燭台は槌で打って作った。それには、台座と支柱と、がくと節と花弁があった。
18 六本の枝がその脇の部分から、すなわち燭台の三本の枝が一方の脇から、燭台のもう三本の枝がもう一方の脇から出ていた。
19 一方の枝には、アーモンドの花の形をした、節と花弁のある三つのがくが、また、もう一方の枝にも、アーモンドの花の形をした、節と花弁のある三つのがくが付いていた。燭台から出る六本の枝はみな、そのようであった。
20 燭台そのものには、アーモンドの花の形をした、節と花弁のある四つのがくが付いていた。
21 それから出る一対の枝の下に一つの節、それから出る次の一対の枝の下に一つの節、それから出るその次の一対の枝の下に一つの節。このように六本の枝が燭台から出ていた。
22 それらの節と枝は燭台と一体で、その全体は一つの純金を打って作られていた。
23 また、ともしび皿を七つ作った。その芯切りばさみも芯取り皿も純金であった。
24 純金一タラントで、燭台とそのすべての器具を作った。
25 彼はアカシヤ材で香の祭壇を作った。長さ一キュビト、幅一キュビトの正方形で、高さは二キュビトであった。祭壇から角が出ているようにした。
26 祭壇の上面と、側面のすべて、および角には純金をかぶせ、また、その周りには金の飾り縁を作った。
27 また、その祭壇のために二つの金の環を作った。その飾り縁の下の両側に、相対するように作り、そこに祭壇を担ぐ棒を通した。
28 その棒をアカシヤ材で作り、それに金をかぶせた。
29 ベツァルエルはまた、調香の技法を凝らして、聖なる注ぎの油と純粋な香り高い香を作った。

第38章

1 また彼は、アカシヤ材で全焼のささげ物の祭壇を造った。長さ五キュビト、幅五キュビトの正方形で、高さは三キュビトであった。

2 その四隅の上に角を作った。その角は祭壇から出ているようになっていた。彼は祭壇に青銅をかぶせた。

3 彼は、祭壇のすべての用具、すなわち、壺、十能、鉢、肉刺し、火皿を作った。そのすべての用具を青銅で作った。

4 祭壇のために、その下の方、すなわち、祭壇の張り出した部分の下に、祭壇の高さの半ばに達する青銅の網細工の格子を作った。

5 四個の環を鋳造して、青銅の格子の四隅で棒を通すところとした。

6 彼はアカシヤ材で棒を作り、それらに青銅をかぶせた。

7 その棒を祭壇の両側にある環に通して、それを担ぐようにした。祭壇は、板で、中が空洞になるように作った。

8 また、青銅で洗盤を、また青銅でその台を作った。会見の天幕の入り口で務めをした女たちの鏡で、それを作った。

9 彼はまた、庭を造った。南側では、庭の掛け幕は撚り糸で織った百キュビトの亜麻布でできていた。

10 柱は二十本、その台座は二十個で青銅、柱の鉤と頭つなぎは銀であった。

11 北側も百キュビトで、柱は二十本、台座は二十個で青銅、その柱の鉤と頭つなぎは銀であった。

12 西側には五十キュビトの掛け幕があり、柱は十本、その台座は十個、その柱の鉤と頭つなぎは銀であった。

13 正面の東側も五十キュビト。

14 門の片側には、十五キュビトの掛け幕と、柱が三本、台座が三個あった。

15 庭の門の両側をなすもう一方の側にも十五キュビトの掛け幕があり、柱は三本、台座は三個であった。

16 庭の周囲の掛け幕はみな、撚り糸で織った亜麻布でできていた。

17 柱のための台座は青銅で、柱の鉤と頭つなぎは銀、柱頭のかぶせ物も銀であった。それで庭の柱はみな、銀の頭つなぎでつなぎ合わされていた。

18 庭の門の垂れ幕は、刺繍を施したもので、青、紫、緋色の撚り糸、それに撚り糸で織った亜麻布でできていた。長さは二十キュビト、高さ、あるいは幅は五キュビトで、庭の掛け幕に対応していた。

19 その柱は四本、その台座は四個で青銅であった。その鉤は銀であり、柱頭のかぶせ物と頭つなぎは銀であった。

20 ただし、幕屋とその周りの庭の杭は、みな青銅であった。

21 幕屋、すなわち、あかしの幕屋の記録は次のとおりである。これはモーセの命によって記録されたもので、祭司アロンの子イタマルのもとでレビ人が奉仕したことであった。

22 ユダ部族に属する、フルの子ウリの子ベツァルエルは、主がモーセに命じられたことをことごとく行った。

23 彼とともに、ダン部族の、アヒサマクの子オホリアブがいた。オホリアブは、彫刻をする者、
意匠を凝らす者、また青、紫、緋色の撚り糸と亜麻布で刺繍をする者であった。
24 聖所の設営のすべてにおいて、その仕事のために用いられた金、すなわち奉献物の金の総計
は、聖所のシェケルで二十九タラント七百三十シェケルであった。
25 登録された会衆による銀は、聖所のシェケルで百タラント千七百七十五シェケルであった。
26 二十歳以上で登録された者が全部で六十万三千五百五十人だったので、これは一人当たり一ベ
カ、聖所のシェケルで半シェケルである。
27 聖所の台座と垂れ幕の台座を鋳造するのに用いた銀は百タラントで、百個の台座に百タラント
用いた。一タラントで一個の台座である。
28 また、千七百七十五シェケルで柱の鉤を作り、柱の頭にかぶせ、頭つなぎで柱をつないだ。
29 奉献物の青銅は七十タラント二千四百シェケルであった。
30 これを用いて、彼は会見の天幕の入り口の台座、青銅の祭壇と、それに付属する青銅の格子、
および祭壇のすべての用具、
31 また、庭の周りの台座、庭の門の台座、幕屋のすべての杭、庭の周りのすべての杭を作った。

第39章

1 彼らは、青、紫、緋色の撚り糸で、聖所で務めを行うための式服を作った。また、主がモーセ
に命じられたとおりに、アロンの聖なる装束を作った。
2 金色、青、紫、緋色の撚り糸、それに撚り糸で織った亜麻布を用いて、エポデを作った。
3 彼らは金の板を打ち延ばして金箔を作り、これを切って糸とし、青、紫、緋色の撚り糸に撚り
込み、それぞれ亜麻布の中に意匠を凝らして織り込んだ。
4 エポデに付ける肩当てが作られ、それぞれがエポデの両端に結ばれた。
5 エポデの上に来るあや織りの帯はエポデと同じ作りで、金色、青、紫、緋色の撚り糸、それに
撚り糸で織った亜麻布を用い、エポデの一部となるようにした。主がモーセに命じられたとお
りである。
6 彼らは縞めのうを金縁の細工の中にはめ込んだ。それには、イスラエルの息子たちの名が、印
章を彫るように刻まれていた。
7 彼らはそれらをエポデの肩当てに付け、イスラエルの息子たちが覚えられるための石とした。
主がモーセに命じられたとおりである。
8 また、意匠を凝らして、エポデの細工と同じように、金色、青、紫、緋色の撚り糸、それに撚
り糸で織った亜麻布を用いて、胸当てを作った。
9 正方形で二重にしてその胸当てを作った。長さは一ゼレト、幅一ゼレトで、二重であった。
10 その中に四列の宝石をはめ込んだ。第一列は赤めのう、トパーズ、エメラルド。
11 第二列はトルコ石、サファイア、ダイヤモンド。
12 第三列はヒヤシンス石、めのう、紫水晶。
13 第四列は緑柱石、縞めのう、碧玉。これらが金縁の細工の中にはめ込まれた。
14 これらの宝石はイスラエルの息子たちの名にちなむもので、彼らの名にしたがい十二個であっ
た。それらは印章のように、それぞれに名が彫られ、十二部族を表した。
15 また、胸当てのために、撚ったひものような鎖を純金で作った。

16 彼らは金縁の細工二個と金の環二個を作り、二個の環を胸当ての両端に付けた。
17 胸当ての両端の二個の環には、二本の金のひもを付けた。
18 その二本のひものもう一方の端を、先の二つの金縁の細工と結び、エポデの肩当ての前側に付けた。
19 さらに二個の金の環を作り、それらを胸当ての両端に、エポデに接する胸当ての内側の縁に付けた。
20 また、さらに二個の金の環を作り、これをエポデの二つの肩当ての下端の前に、エポデのあや織りの帯の上部の継ぎ目に、向かい合うように付けた。
21 胸当ては、その環からエポデの環に青ひもで結び付け、エポデのあや織りの帯の上にあるようにし、胸当てがエポデから外れないようにした。主がモーセに命じられたとおりである。
22 また、エポデの下に着る青服を、織物の技法を凝らして青色の撚り糸だけで作った。
23 青服の首の穴はその真ん中にあり、よろいの襟のようで、ほころびないようにその周りに縁を付けた。
24 青服の裾の上に、青、紫、緋色の撚り糸で撚ったざくろを作った。
25 また彼らは純金の鈴を作り、その鈴を青服の裾周りの、ざくろとざくろとの間に付けた。
26 すなわち、務めを行うための青服の裾周りには、鈴、ざくろ、鈴、ざくろとなるようにした。主がモーセに命じられたとおりである。
27 彼らはアロンとその子らのために、織物の技法を凝らして、亜麻布の長服を、
28 亜麻布のかぶり物、亜麻布の麗しいターバン、そして撚り糸で織った亜麻布のももひきを作った。
29 また、撚り糸で織った亜麻布と、青、紫、緋色の撚り糸を用い、刺繍を施して飾り帯を作った。主がモーセに命じられたとおりである。
30 また、聖別の記章の札を純金で作り、その上に印章を彫るように「主の聖なるもの」という文字を記した。
31 これに青ひもを付け、それを、かぶり物に上の方から結び付けた。主がモーセに命じられたとおりである。
32 こうして、会見の天幕である幕屋のすべての奉仕が終わった。イスラエルの子らは、すべて主がモーセに命じられたとおりに行い、そのようにした。
33 彼らは幕屋をモーセのところに運んで来た。天幕とそのすべての備品、留め金、板、横木、柱、台座、
34 赤くなめした雄羊の皮の覆い、じゅごんの皮の覆い、仕切りの垂れ幕、
35 あかしの箱と、その棒、「宥めの蓋」、
36 机と、そのすべての備品、臨在のパン、
37 きよい燭台と、そのともしび皿、すなわち一列に並べるともしび皿、そのすべての道具、ともしび用の油、
38 金の祭壇、注ぎの油、香り高い香、そして天幕の入り口の垂れ幕、
39 青銅の祭壇と、それに付属する青銅の格子、その棒、そのすべての用具、洗盤とその台、
40 庭の掛け幕と、その柱、その台座、庭の門のための垂れ幕と、そのひも、その杭、会見の天幕の幕屋の奉仕に用いるすべての用具、

41 聖所で務めを行うための式服、すなわち、祭司アロンの聖なる装束と、祭司として仕える彼の子らの装束である。
42 イスラエルの子らは、すべて主がモーセに命じられたとおりに、そのとおりに、すべての奉仕を行った。
43 モーセがすべての仕事を見ると、彼らは、見よ、主が命じられたとおりに行っていた。そこでモーセは彼らを祝福した。

第40章

1 主はモーセに告げられた。
2 「第一の月の一日に、あなたは会見の天幕である幕屋を設営しなければならない。
3 あなたはその中にあかしの箱を置き、垂れ幕で箱の前をさえぎる。
4 机を運び入れて備品を並べ、燭台を運び入れて、そのともしび皿を載せる。
5 香のための金の祭壇をあかしの箱の前に置き、垂れ幕を幕屋の入り口に掛ける。
6 会見の天幕である幕屋の入り口の前には、全焼のささげ物の祭壇を据え、
7 会見の天幕と祭壇との間に洗盤を据えて、これに水を入れる。
8 周りに庭を設け、庭の門に垂れ幕を掛ける。
9 あなたは注ぎの油を取って、幕屋とその中にあるすべてのものの油注ぎを行い、それと、そのすべての用具を聖別する。それは聖なるものとなる。
10 全焼のささげ物の祭壇とそのすべての用具の油注ぎを行い、その祭壇を聖別する。祭壇は最も聖なるものとなる。
11 洗盤とその台の油注ぎを行い、これを聖別する。
12 また、あなたはアロンとその子らを会見の天幕の入り口に近づかせ、水で洗い、
13 アロンに聖なる装束を着せ、油注ぎを行って彼を聖別し、祭司としてわたしに仕えさせる。
14 また彼の子らを近づかせ、これに長服を着せる。
15 彼らの父に油注ぎをしたように、彼らにも油注ぎをし、祭司としてわたしに仕えさせる。彼らが油注がれることは、彼らの代々にわたる永遠の祭司職のためである。」
16 モーセは、すべて主が彼に命じられたとおりに行い、そのようにした。
17 第二年の第一の月、その月の一日に幕屋は設営された。
18 モーセは幕屋を設営した。まず、その台座を据え、その板を立て、その横木を通し、その柱を立て、
19 幕屋の上に天幕を広げ、その上に天幕の覆いを掛けた。主がモーセに命じられたとおりである。
20 また、さとしの板を取って箱に納め、棒を箱に付け、「宥めの蓋」を箱の上に置き、
21 箱を幕屋の中に入れ、仕切りの垂れ幕を掛け、あかしの箱の前をさえぎった。主がモーセに命じられたとおりである。
22 また、会見の天幕の中に、すなわち、幕屋の内部の北側、垂れ幕の外側に机を置いた。
23 その上にパンを一列にして、主の前に並べた。主がモーセに命じられたとおりである。
24 会見の天幕の中、机の反対側、幕屋の内部の南側に燭台を置き、

25 主の前にともしび皿を掲げた。主がモーセに命じられたとおりである。
26 それから、会見の天幕の中の垂れ幕の前に、金の祭壇を置き、
27 その上で香り高い香をたいた。主がモーセに命じられたとおりである。
28 また、幕屋の入り口に垂れ幕を掛け、
29 会見の天幕である幕屋の入り口に全焼のささげ物の祭壇を置き、その上に全焼のささげ物と穀物のささげ物を献げた。主がモーセに命じられたとおりである。
30 また、会見の天幕と祭壇との間に洗盤を置き、洗いのために、それに水を入れた。
31 モーセとアロンとその子らは、それで手と足を洗った。
32 会見の天幕に入るとき、また祭壇に近づくとき、彼らはいつも洗った。主がモーセに命じられたとおりである。
33 また、幕屋と祭壇の周りに庭を設け、庭の門に垂れ幕を掛けた。こうしてモーセはその仕事を終えた。
34 そのとき、雲が会見の天幕をおおい、主の栄光が幕屋に満ちた。
35 モーセは会見の天幕に入ることができなかった。雲がその上にとどまり、主の栄光が幕屋に満ちていたからである。
36 イスラエルの子らは、旅路にある間、いつも雲が幕屋から上ったときに旅立った。
37 雲が上らないと、上る日まで旅立たなかった。
38 旅路にある間、イスラエルの全家の前には、昼は主の雲が幕屋の上に、夜は雲の中に火があった。